

## 調査結果

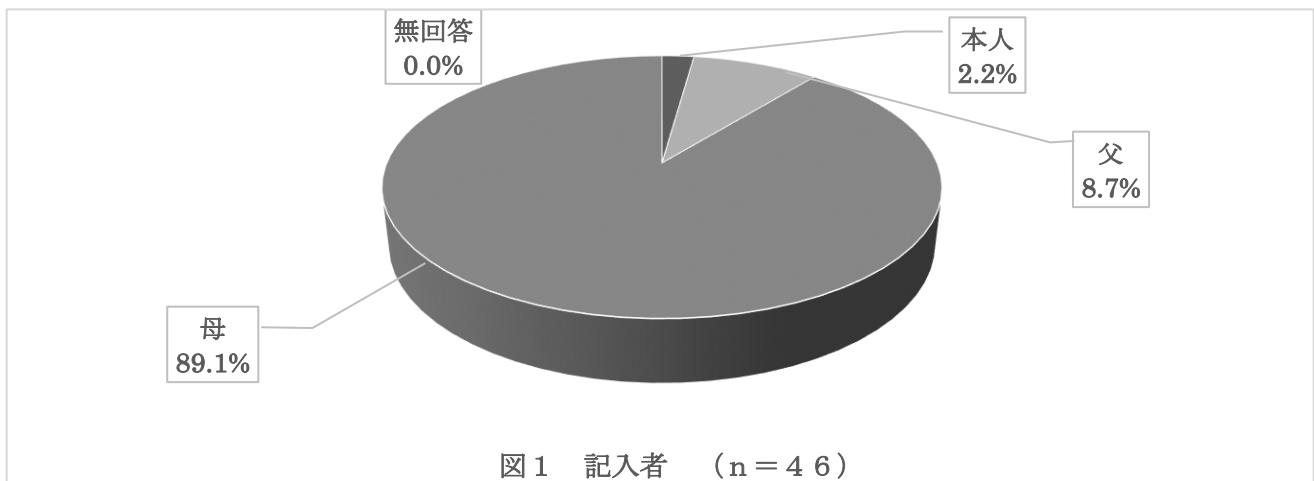
問1. このアンケートにご記入いただく方について、ご本人（お子さま）またはご本人から見た続柄であてはまるもの1つに○を付けてください。

「母」が89.1%と最も多く、次いで「父」が8.7%、「本人」が2.2%となっている。

表1 記入者

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

本人	父	母	無回答
1	4	41	0
2.2	8.7	89.1	0.0



## 【ご本人について】

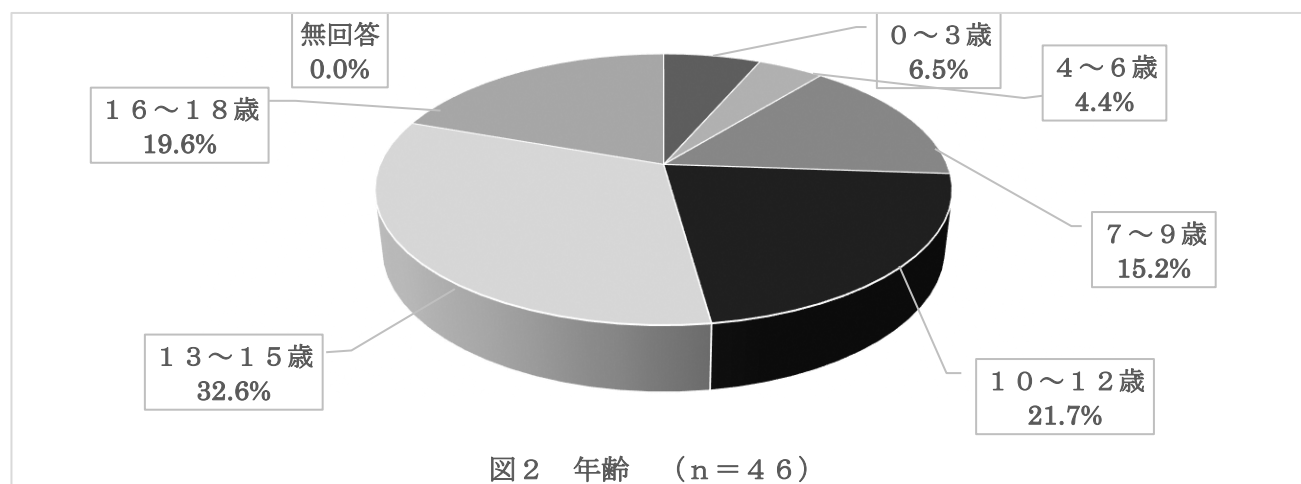
問2. ご本人の年齢をご記入ください。(令和2年4月1日現在)

「0～3歳」「4～6歳」の計は10.9%、「7～9歳」「10～12歳」の計は36.9%、「13～15歳」「16～18歳」の計は52.2%となっている。

表2 年齢

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

0～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	無回答
3	2	7	10	15	9	0
6.5	4.4	15.2	21.7	32.6	19.6	0.0



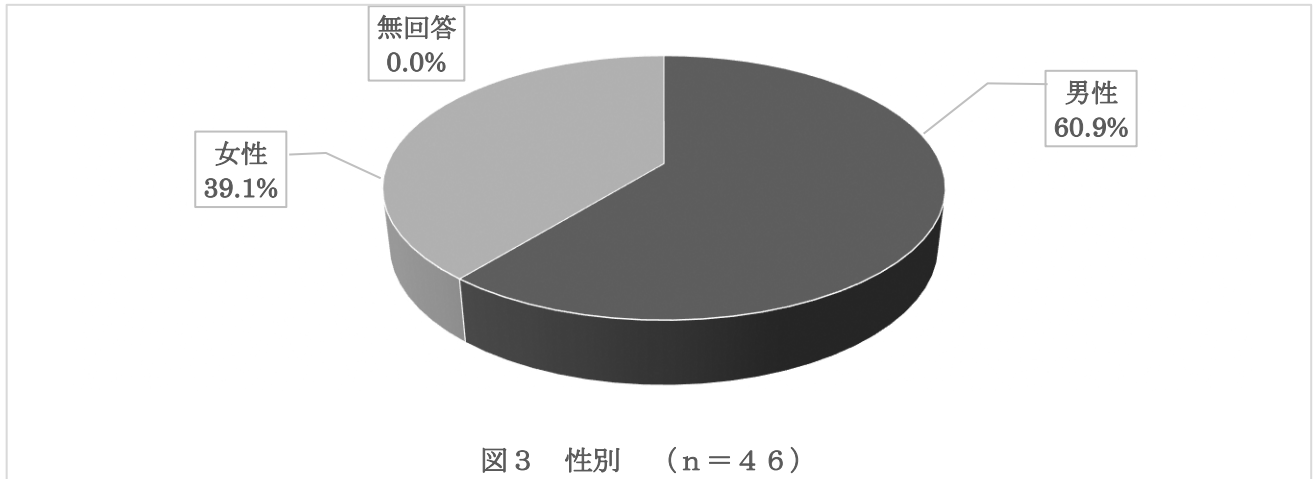
問3. ご本人の性別について、いずれかに○を付けてください。

「男性」が60.9%、「女性」が39.1%となっている。

表3 性別

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

男性	女性	無回答
28	18	0
60.9	39.1	0.0



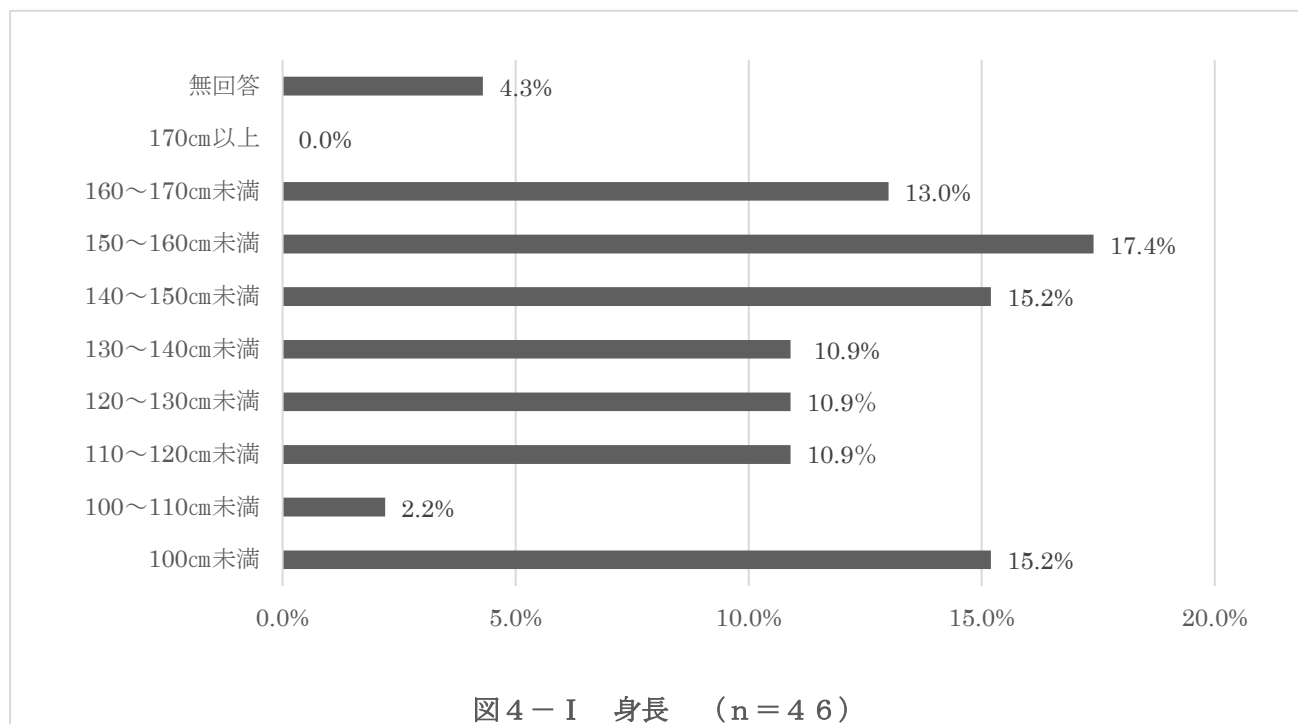
問4. ご本人の身長と体重をご記入ください。

身長は、「150～160 cm未満」が17.4%と最も多く、次いで「140～150 cm未満」「100 cm未満」が15.2%となっている。

表4-I 身長

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

100 cm 未満	100～110 cm 未満	110～120 cm 未満	120～130cm 未満	130～140 cm 未満	140～150 cm 未満	150～160 cm 未満	160～170cm 未満	170 cm 以上	無回答
7	1	5	5	5	7	8	6	0	2
15.2	2.2	10.9	10.9	10.9	15.2	17.4	13.0	0.0	4.3

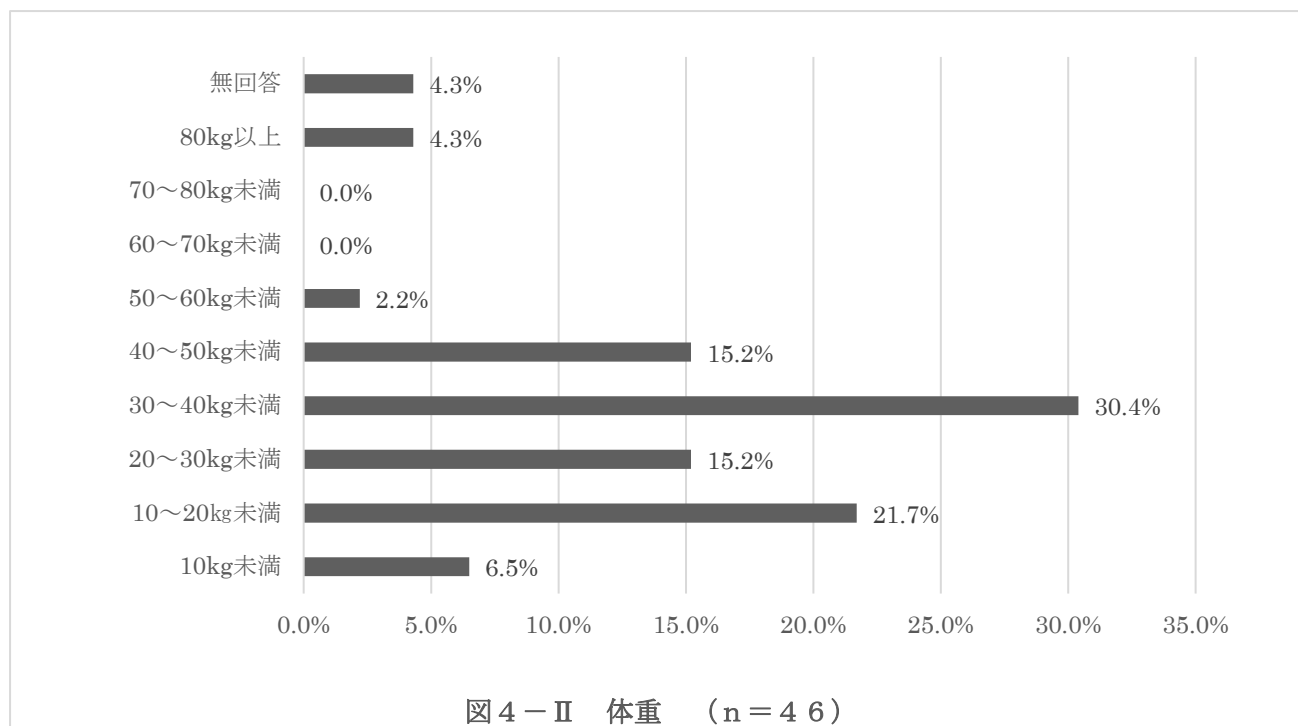


体重は、「30～40kg 未満」が 30.4%と最も多く、次いで「10～20kg 未満」が 21.7%となっている。

表 4 - II 体重

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

10kg 未満	10～ 20kg 未満	20～ 30kg 未満	30～ 40kg 未満	40～ 50kg 未満	50～ 60kg 未満	60～ 70kg 未満	70～ 80kg 未満	80kg 以上	無回答
3	10	7	14	7	1	0	0	2	2
6.5	21.7	15.2	30.4	15.2	2.2	0.0	0.0	4.3	4.3



問5. ご本人の身体障害者手帳について、いずれかの等級に○を付け、障害名（疾患名）をご記入ください。

「1級」が60.9%と最も多く、次いで「2級」が17.4%、「3級」が13.0%となっている。

表5 身体障害者手帳等級

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
28	8	6	2	2	0	0
60.9	17.4	13.0	4.3	4.3	0.0	0.0

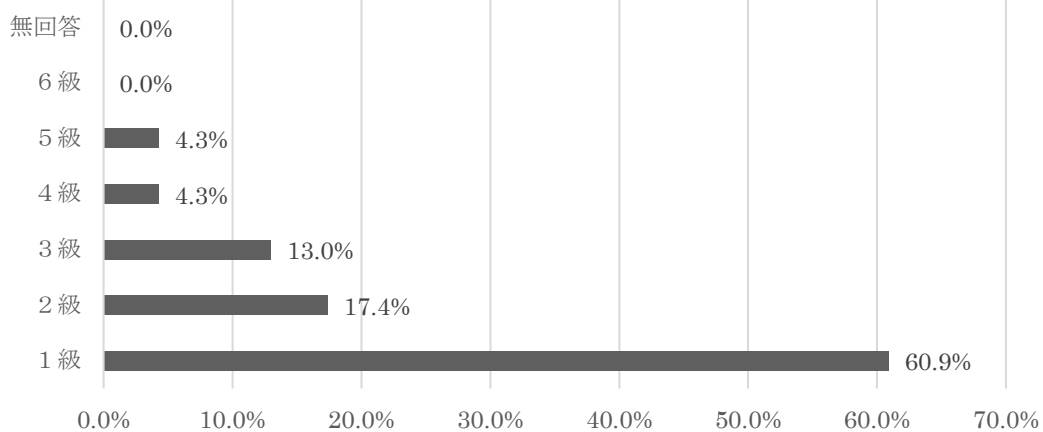


図5 身体障害者手帳等級 (n = 46)

問6. ご本人の身体障害者手帳以外の手帳について、種類の有無といずれかの等級に○を付けてください。

「療育手帳」は60.9%が所持しており、そのうち「㉠」が85.7%、「A」が7.1%となっている。

表6-I 療育手帳所持

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

ある	なし	無回答
28	15	3
60.9	32.6	6.5

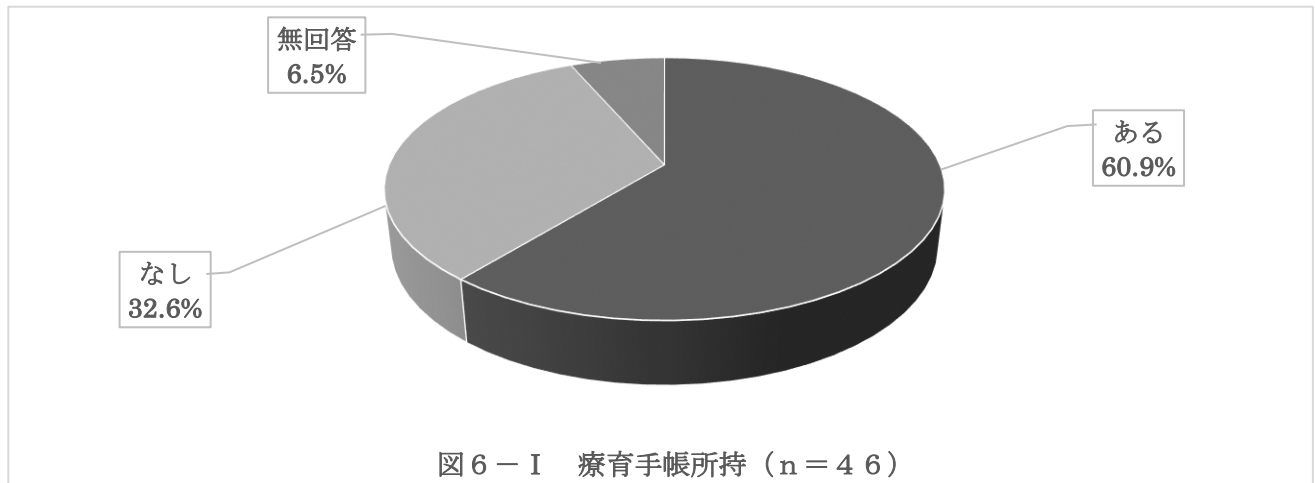
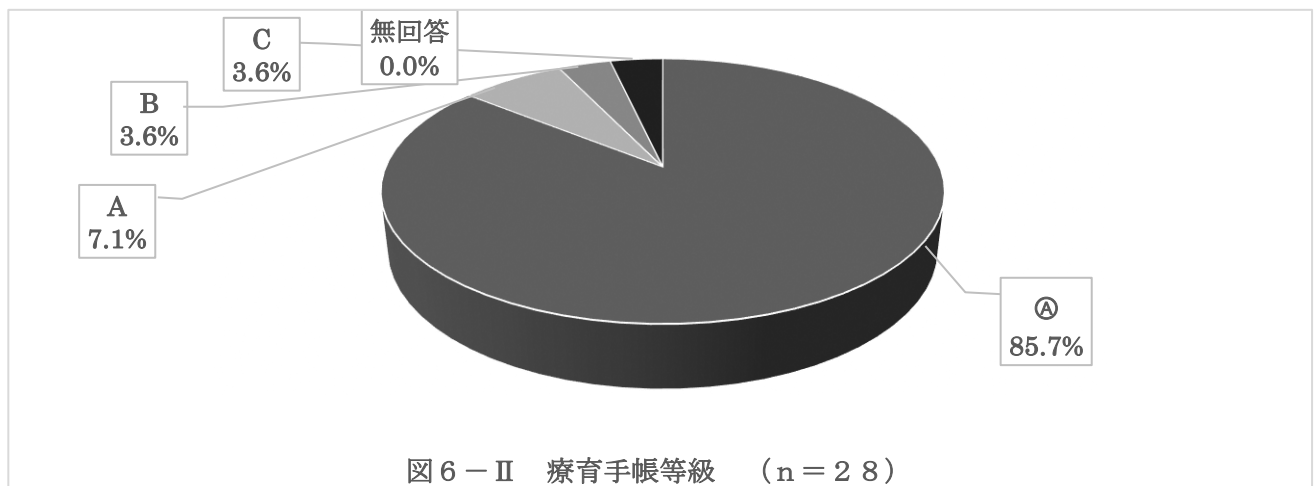


表6-II 療育手帳等級

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

㉠	A	B	C	無回答
24	2	1	1	0
85.7	7.1	3.6	3.6	0.0



「精神障害者保健福祉手帳」は4.4%が所持しており、「1級」が100.0%となっている。

表6-III 精神障害者保健福祉手帳所持

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

ある	なし	無回答
2	37	7
4.4	80.4	15.2

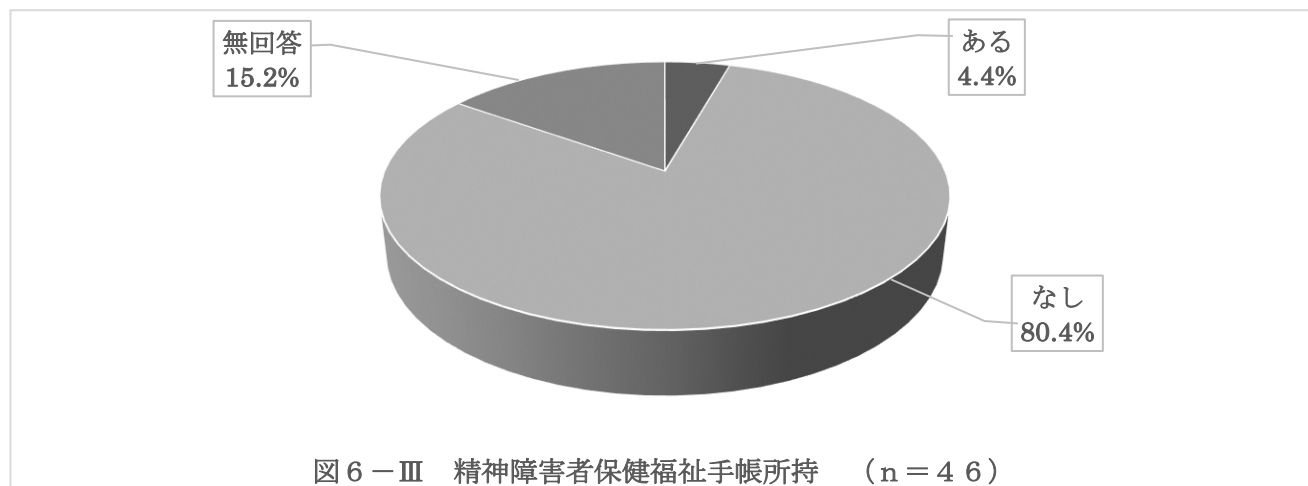
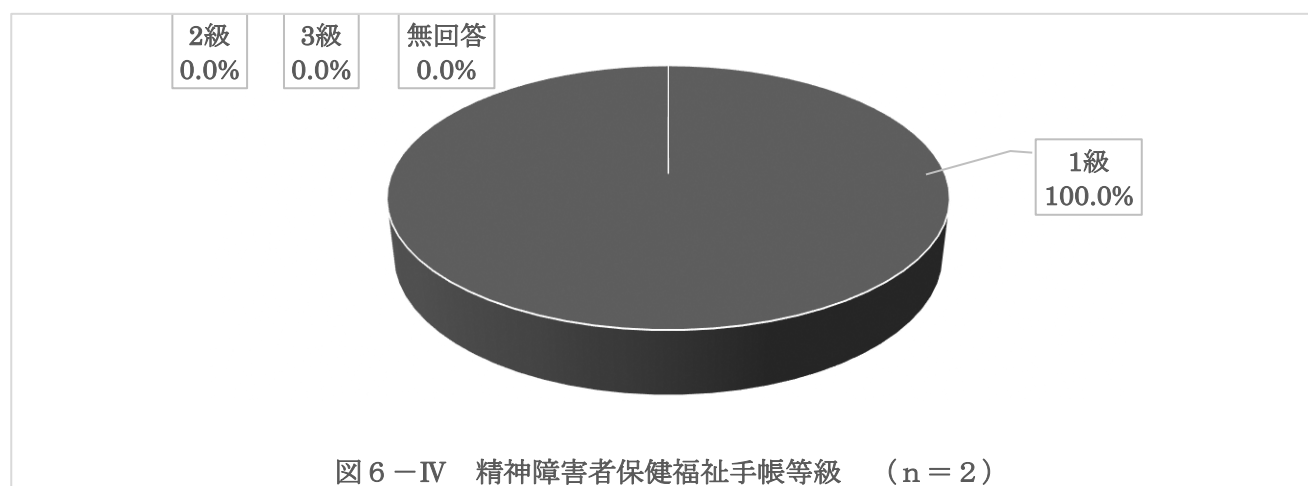


表6-IV 精神障害者保健福祉手帳等級

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

1級	2級	3級	無回答
2	0	0	0
100.0	0.0	0.0	0.0





問7. ご本人の姿勢について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「一人立ちができる」が32.6%と最も多く、次いで「自分で座ることができる」が28.3%、「寝たきり」が26.1%となっている。

表7 姿勢

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

寝たきり	自分で座ることができる	つかまり立ちができる	一人立ちができる	無回答
12	13	6	15	0
26.1	28.3	13.0	32.6	0.0

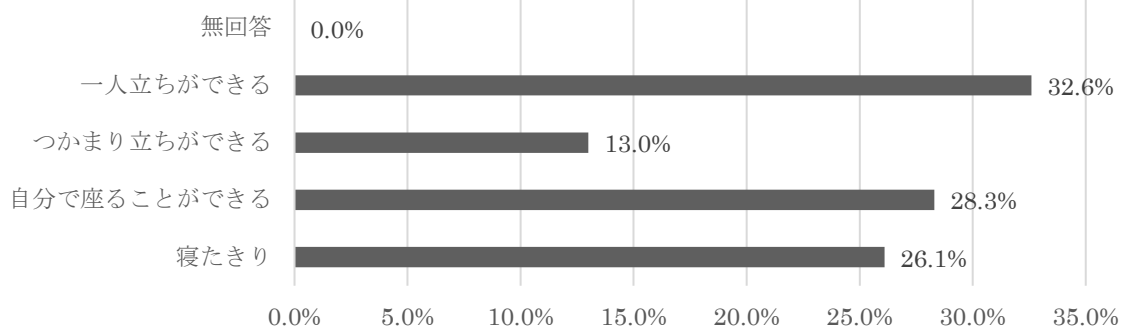


図7 姿勢 (n=46)

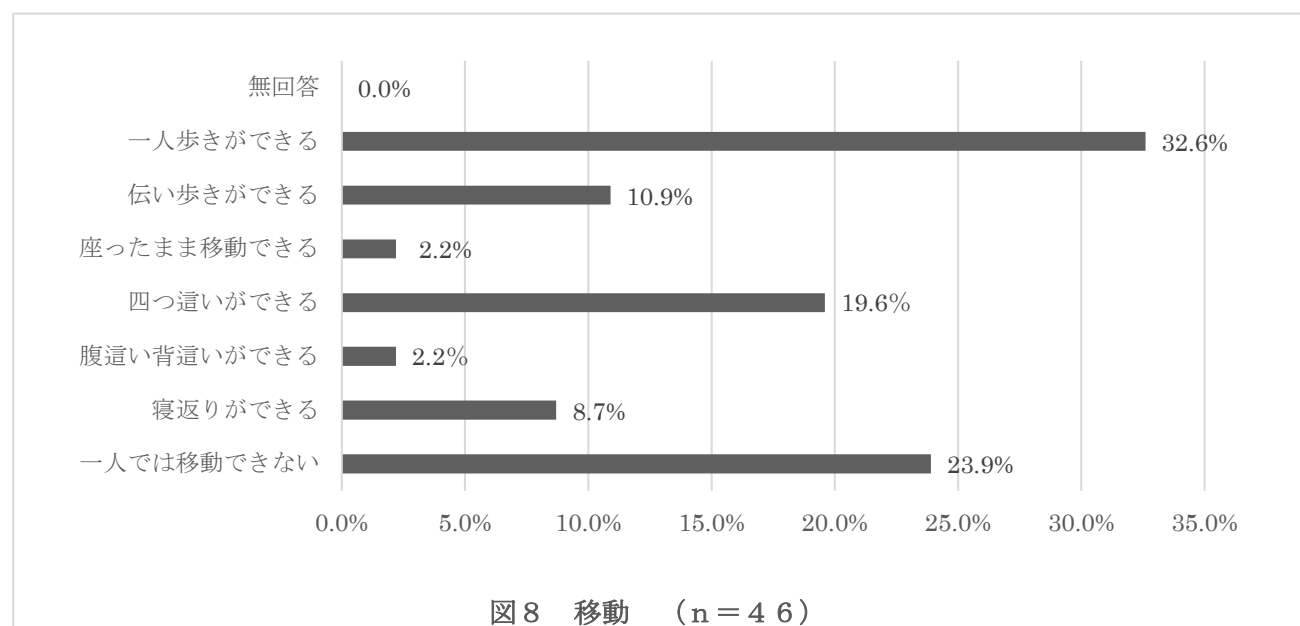
問8. ご本人の移動について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「一人歩きができる」(手引き介助、補装具の使用含む)が32.6%と最も多く、次いで「一人では移動できない」が23.9%、「四つ這いができる」が19.6%となっている。

表8 移動

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

一人では移動できない	寝返りができる	腹這い背這いができる	四つ這いができる	座ったまま移動できる	伝い歩きができる	一人歩きができる	無回答
11	4	1	9	1	5	15	0
23.9	8.7	2.2	19.6	2.2	10.9	32.6	0.0



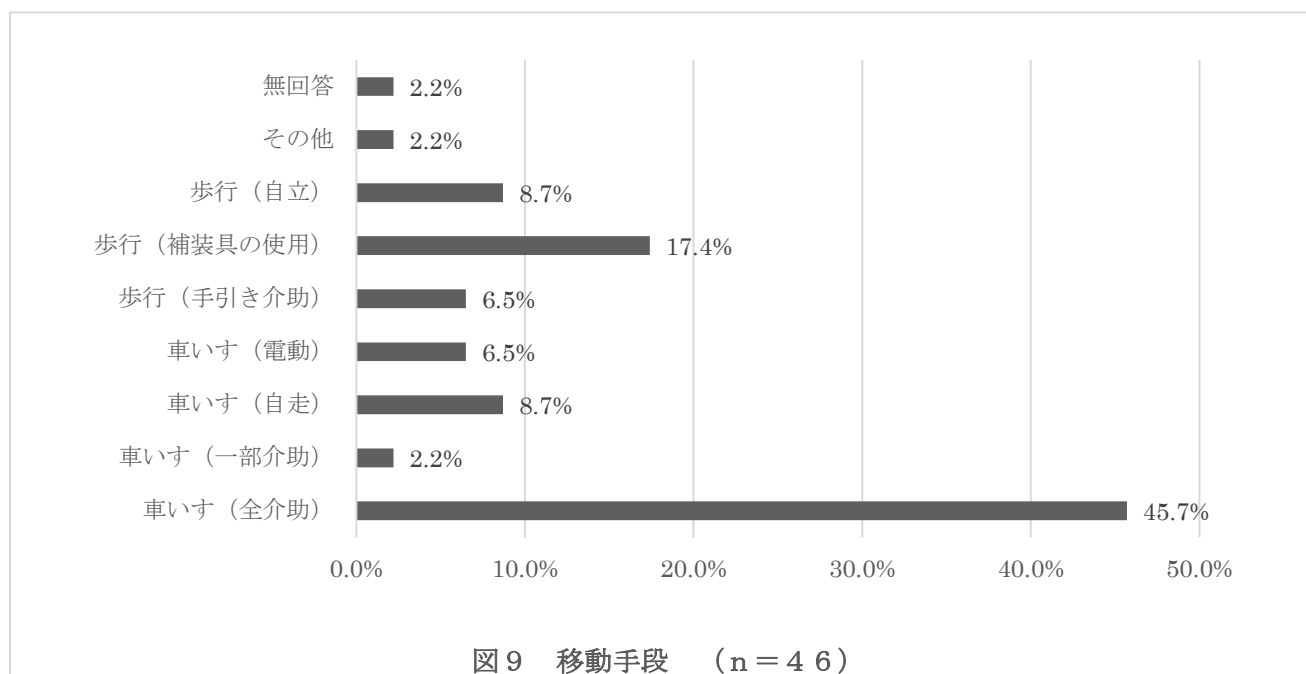
問9. ご本人の主な移動手段について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「車いす（全介助）」が45.7%と最も多く、次いで「歩行（補装具の使用）」が17.4%、「車いす（自走）」、「歩行（自立）」がそれぞれ8.7%となっている。

表9 移動手段

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

車いす （全介助）	車いす （一部介助）	車いす （自走）	車いす （電動）	歩行 （手引き 介助）	歩行 （補装具 の使用）	歩行 （自立）	その他	無回答
21	1	4	3	3	8	4	1	1
45.7	2.2	8.7	6.5	6.5	17.4	8.7	2.2	2.2



<その他>

- ・外では車いす（全介助）、家では支え歩き

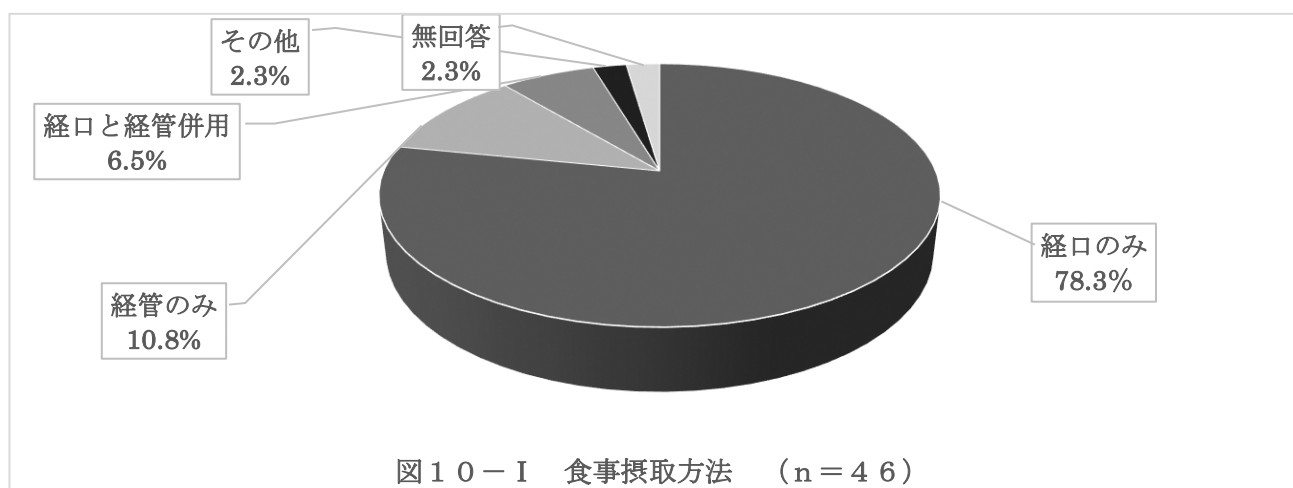
問10. ご本人の食事摂取方法について、あてはまるもの1つに○を付け、その方法・介助について（ ）内のあてはまるもの1つに○を付けてください。

「経口のみ」が78.3%と最も多く、次いで「経管のみ」が10.8%、「経口と経管併用」が6.5%となっている。

表10-I 食事摂取方法

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

経口のみ	経管のみ	経口と経管併用	その他	無回答
36	5	3	1	1
78.3	10.8	6.5	2.3	2.3

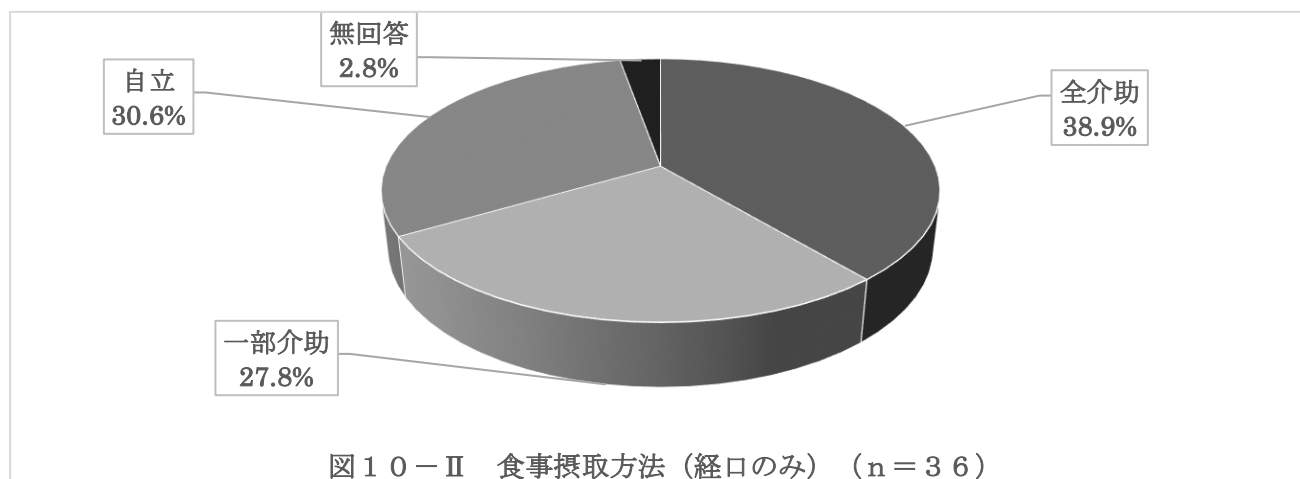


「経口のみ」は、「全介助」が38.9%と最も多く、次いで「自立」が30.6%、「一部介助」が27.8%となっている。

表10-II 食事摂取方法（経口のみ）

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

全介助	一部介助	自立	無回答
14	10	11	1
38.9	27.8	30.6	2.8

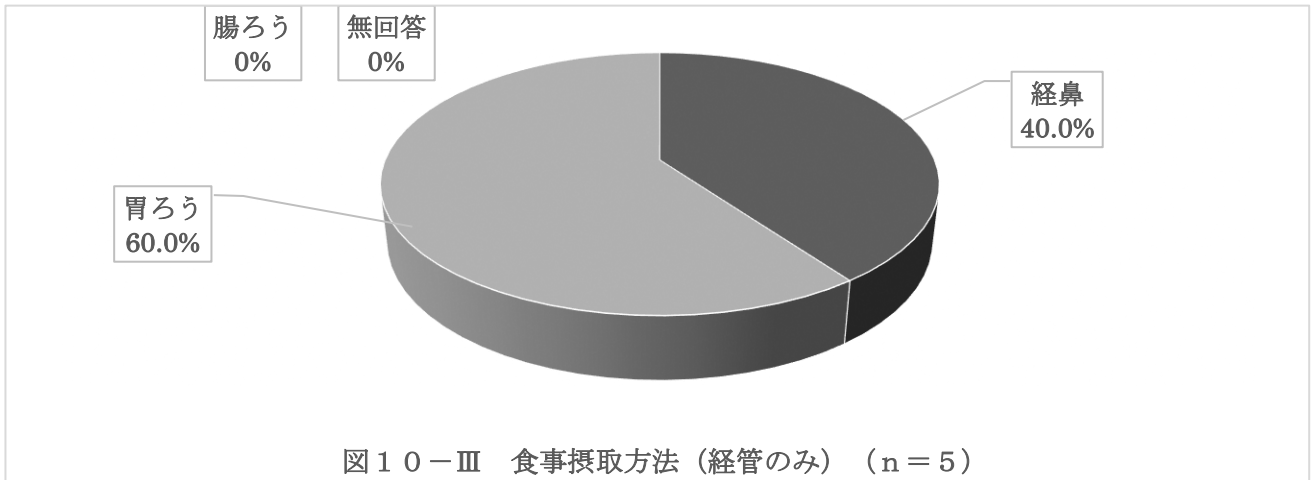


「経管のみ」は、「胃ろう」が60.0%、次いで「経鼻」が40.0%となっている。

表10-III 食事摂取方法（経管のみ）

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

経鼻	胃ろう	腸ろう	無回答
2	3	0	0
40.0	60.0	0.0	0.0

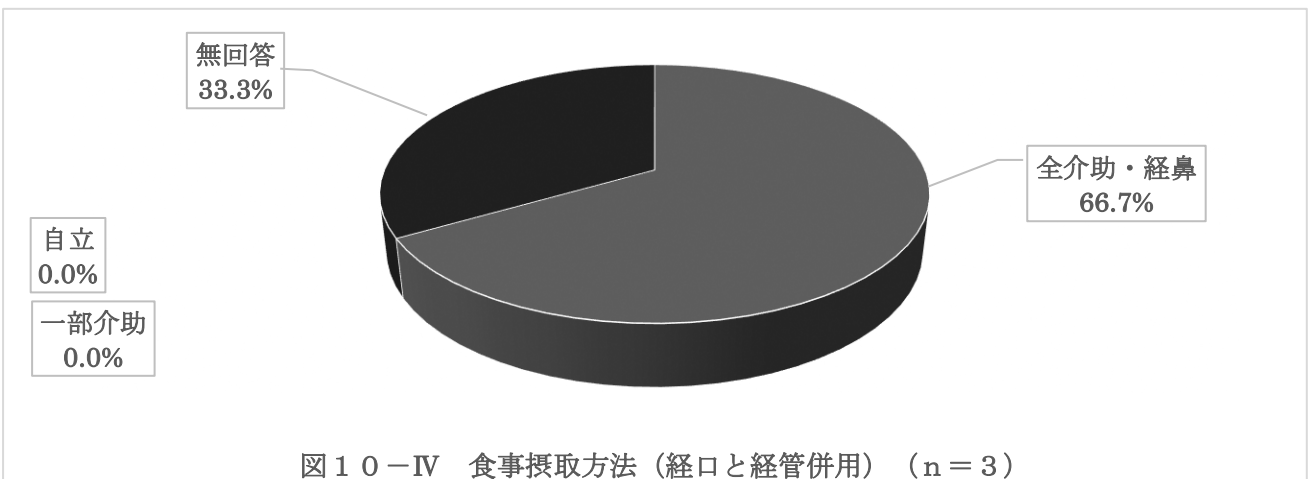


「経口と経管併用」は、「経口（全介助）と経管（経鼻）」が66.7%となっている。

表10-IV 食事摂取方法（経口と経管併用）

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

全介助・経鼻	一部介助	自立	無回答
2	0	0	1
66.7	0.0	0.0	33.3



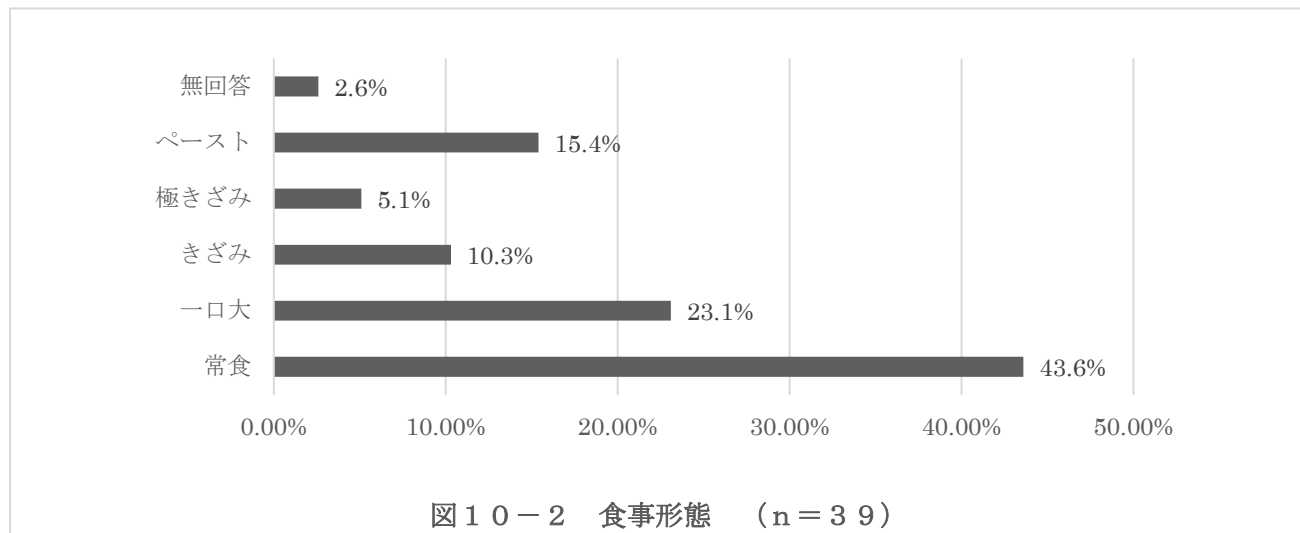
問10-2. 問10で「1. 経口」または「3. 経口と経管併用」を選ばれた方に伺います。経口の食事形態について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「常食」が43.6%と最も多く、次いで「一口大」が23.1%、「ペースト」が15.4%となっている。

表10-2 食事形態

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

常食	一口大	きざみ	極きざみ	ペースト	無回答
17	9	4	2	6	1
43.6	23.1	10.3	5.1	15.4	2.6



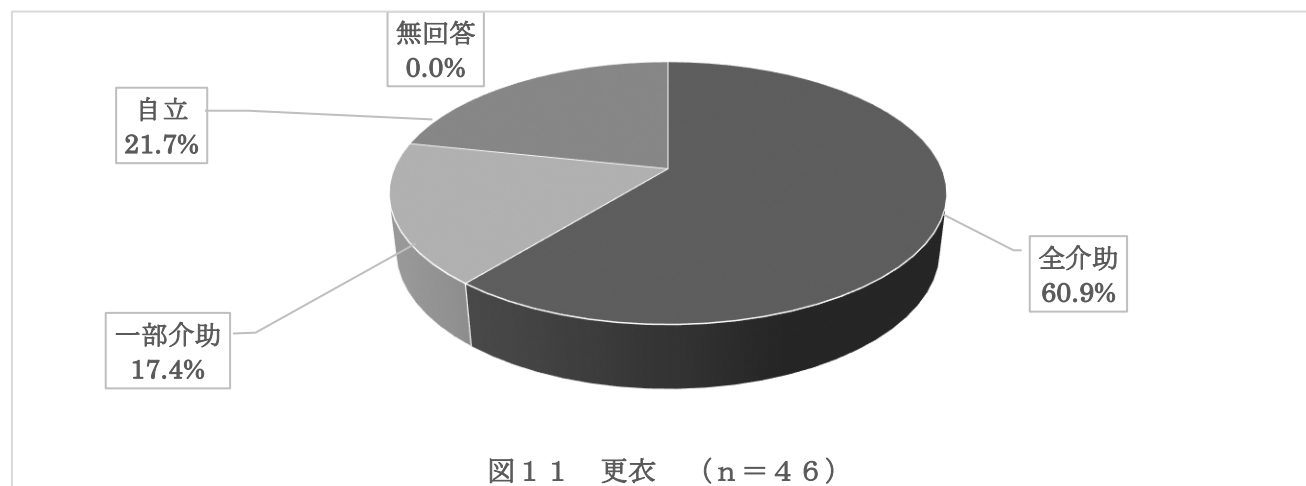
問 1 1. ご本人の更衣（着替え）について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「全介助」が 60.9%と最も多く、次いで「自立」が 21.7%、「一部介助」が 17.4%となっている。

表 1 1 更衣

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

全介助	一部介助	自立	無回答
28	8	10	0
60.9	17.4	21.7	0.0



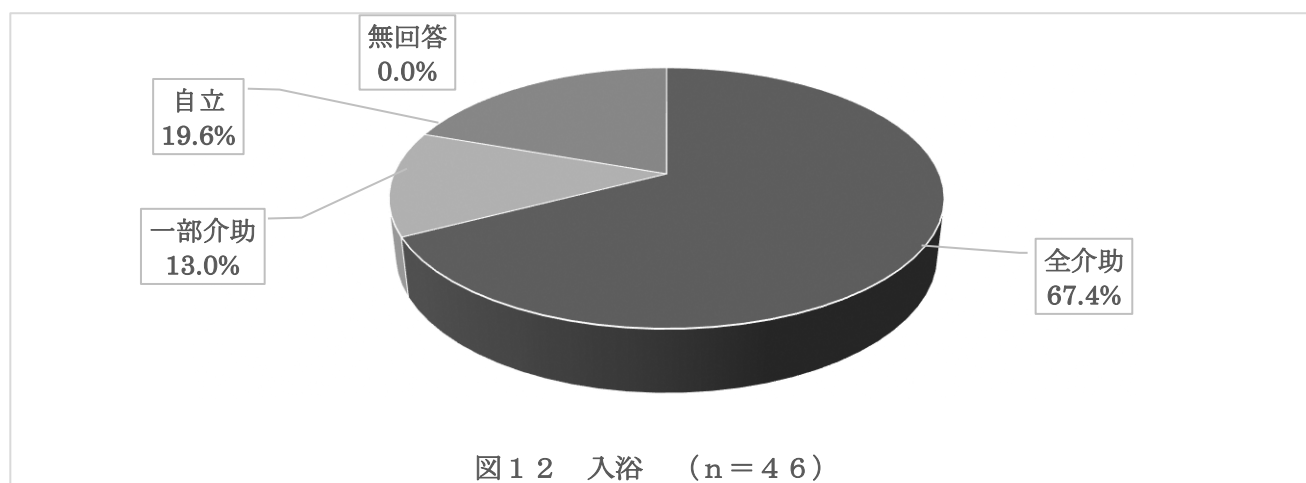
問 1 2. ご本人の入浴について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「全介助」が 67.4%と最も多く、次いで「自立」が 19.6%となっている。

表 1 2 入浴

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

全介助	一部介助	自立	無回答
31	6	9	0
67.4	13.0	19.6	0.0



問13. ご本人の排泄について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「紙おむつ使用（全介助）」が52.2%と最も多く、次いで「自立」が21.7%、「紙おむつ・トイレ併用（全介助）」「トイレ使用（一部介助）」が共に10.9%となっている。

表13 排泄

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

紙おむつ使用 （全介助）	トイレ使用 （全介助）	紙おむつ・ トイレ併用 （全介助）	トイレ使用 （一部介助）	自立	無回答
24	2	5	5	10	0
52.2	4.3	10.9	10.9	21.7	0.0

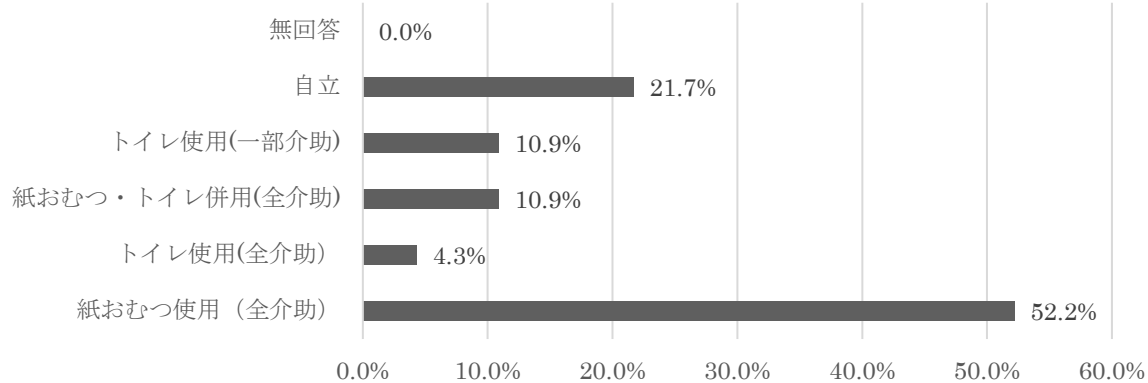


図13 排泄 (n=46)



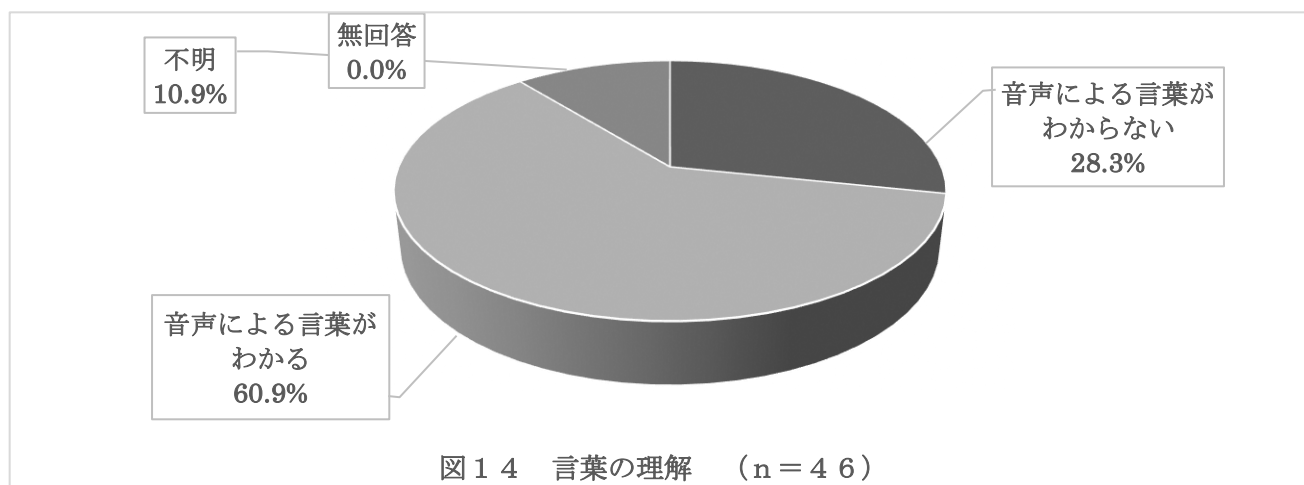
問14. ご本人の音声による言葉の理解について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「音声による言葉がわかる」が60.9%と最も多く、次いで「音声による言葉がわからない」が28.3%となっている。

表14 言葉の理解

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

音声による言葉がわからない	音声による言葉がわかる	不明	無回答
13	28	5	0
28.3	60.9	10.9	0.0



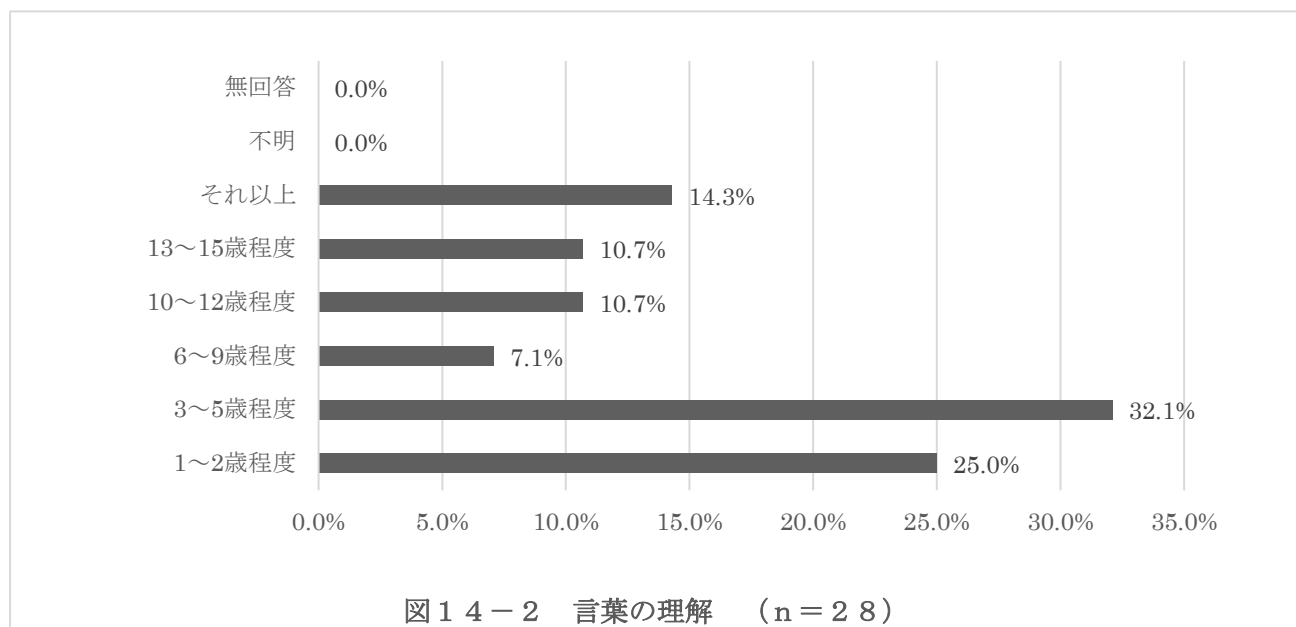
問14-2. 問14で「2. 音声による言葉（単語）がわかる」を選ばれた方に伺います。  
音声による言葉の理解度について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「3～5歳程度」が32.1%と最も多く、次いで「1～2歳程度」が25.0%となっている。

表14-2 言葉の理解

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

1～2歳程度	3～5歳程度	6～9歳程度	10～12歳程度	13～15歳程度	それ以上	不明	無回答
7	9	2	3	3	4	0	0
25.0	32.1	7.1	10.7	10.7	14.3	0.0	0.0



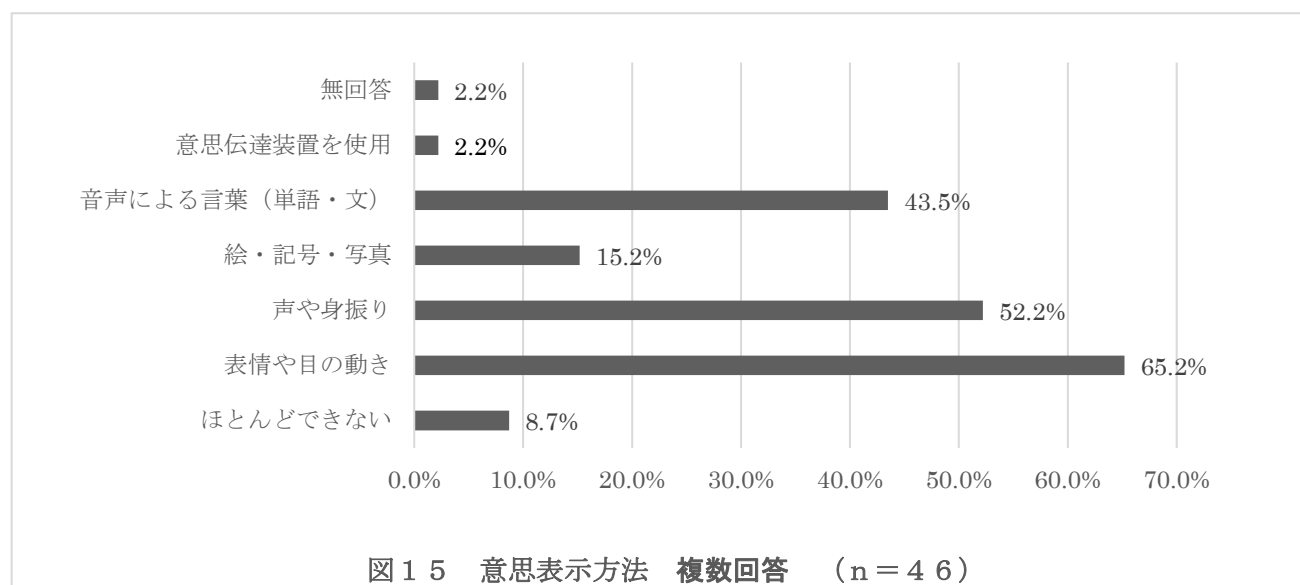
問15. ご本人の意思表示方法について、あてはまるものすべてに○を付けてください。

「表情や目の動き」が65.2%と最も多く、次いで「声や身振り」が52.2%、「音声による言葉（単語・文）」が43.5%となっている。

表15 意思表示方法 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

ほとんどできない	表情や目の動き	声や身振り	絵・記号・写真	音声による言葉（単語・文）	意思伝達装置を使用	無回答
4	30	24	7	20	1	1
8.7	65.2	52.2	15.2	43.5	2.2	2.2



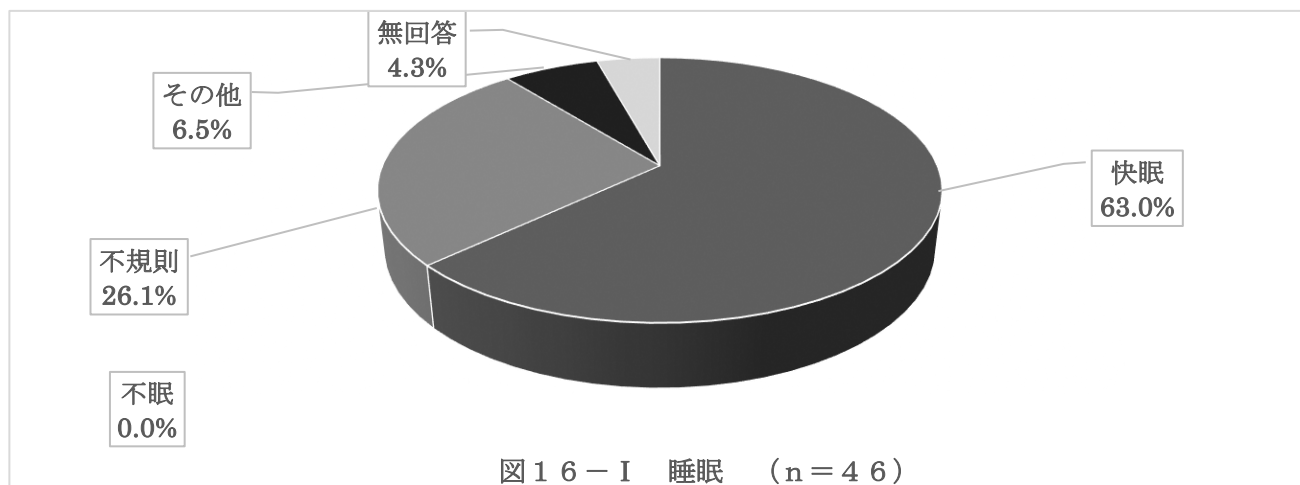
問16. 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言前（2020年4月6日以前）のご本人の睡眠について、あてはまるもの1つに○を付け、就寝時刻～起床時刻と平均睡眠時間をご記入ください。

「快眠」が63.0%と最も多く、次いで「不規則」が26.1%となっている。

表16-I 睡眠

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

快眠	不眠	不規則	その他	無回答
29	0	12	3	2
63.0	0.0	26.1	6.5	4.3



<その他>

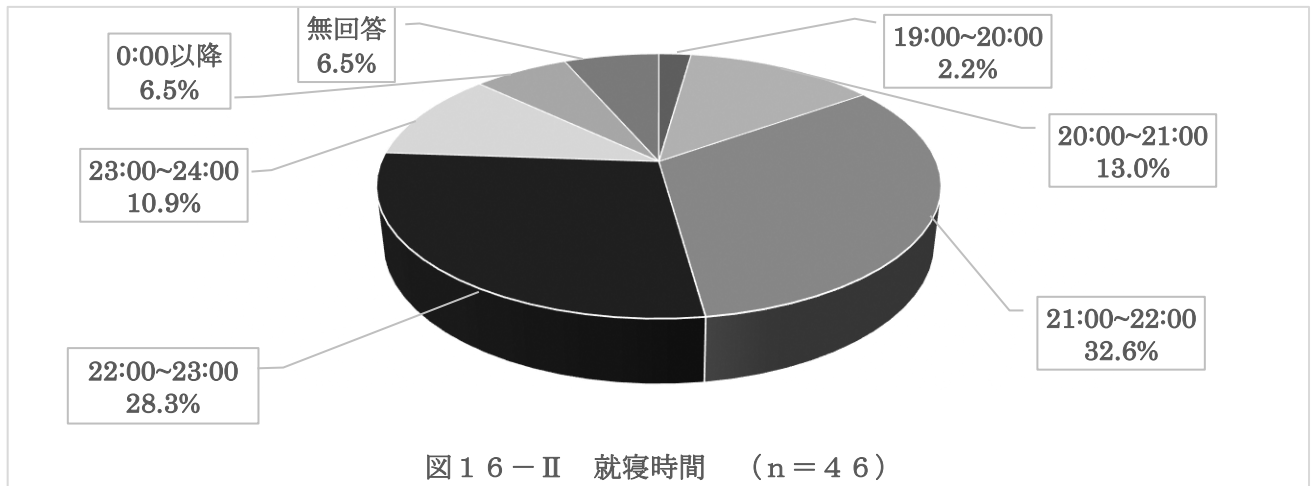
- ・快眠であっても急に起きる。朝も日により違う
- ・夜中に何度か起きる
- ・2～3hおきに痰の吸引で起きる

「21：00～22：00」が32.6%と最も多く、次いで「22：00～23：00」が28.3%となっている。

表 1 6 - II 就寝時刻

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

19：00～ 20：00	20：00～ 21：00	21：00～ 22：00	22：00～ 23：00	23：00～ 24：00	0：00以降	無回答
1	6	15	13	5	3	3
2.2	13.0	32.6	28.3	10.9	6.5	6.5

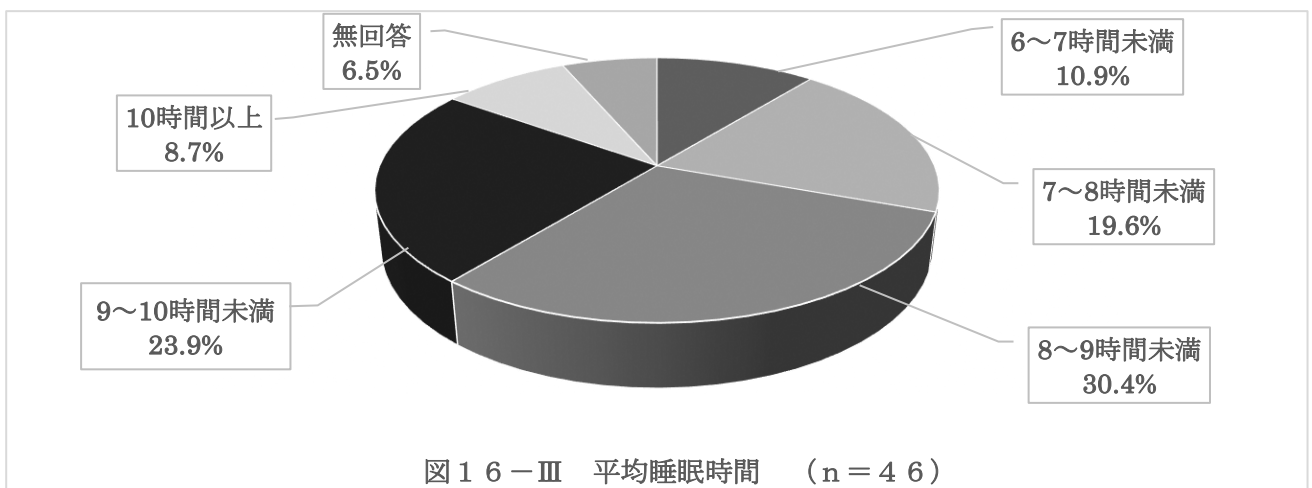


「8～9 時間未満」が30.4%と最も多く、次いで「9～10 時間未満」が23.9%となっている。

表 1 6 - III 平均睡眠時間

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

6～7 時間未満	7～8 時間未満	8～9 時間未満	9～10 時間未満	10 時間以上	無回答
5	9	14	11	4	3
10.9	19.6	30.4	23.9	8.7	6.5



問 1 7. 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言前（2020 年 4 月 6 日以前）のご本人の睡眠導入剤の投薬について、あてはまるもの 1 つに ○ を付けてください。

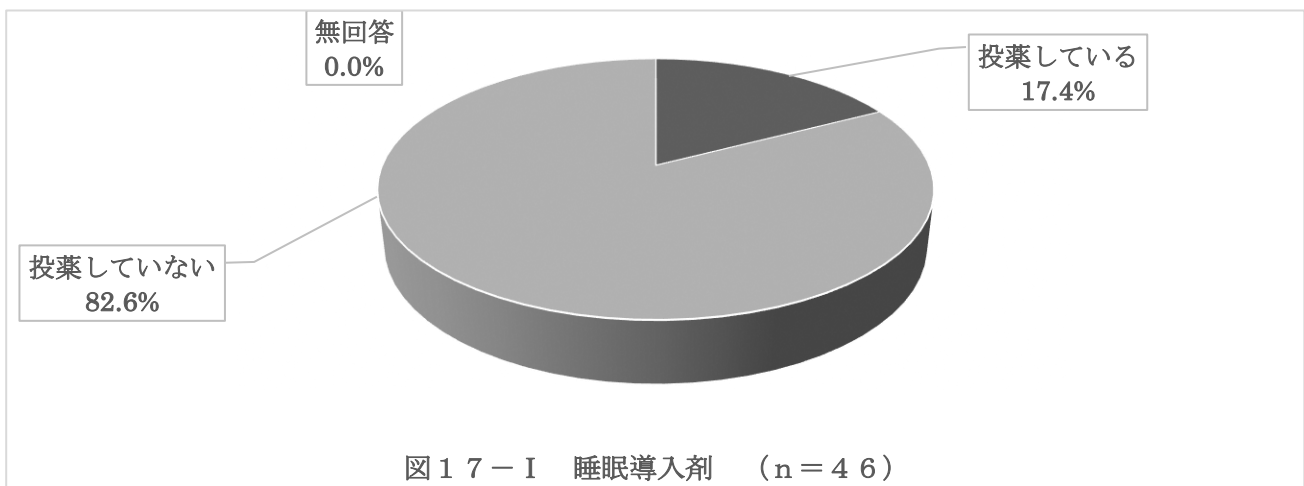
「1. 投薬している」を選ばれた方は、投薬の頻度について、( ) 内のあてはまるもの 1 つに ○ を付けてください。

「投薬している」が 17.4% となっている。

表 1 7 - I 睡眠導入剤

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

投薬している	投薬していない	無回答
8	38	0
17.4	82.6	0.0

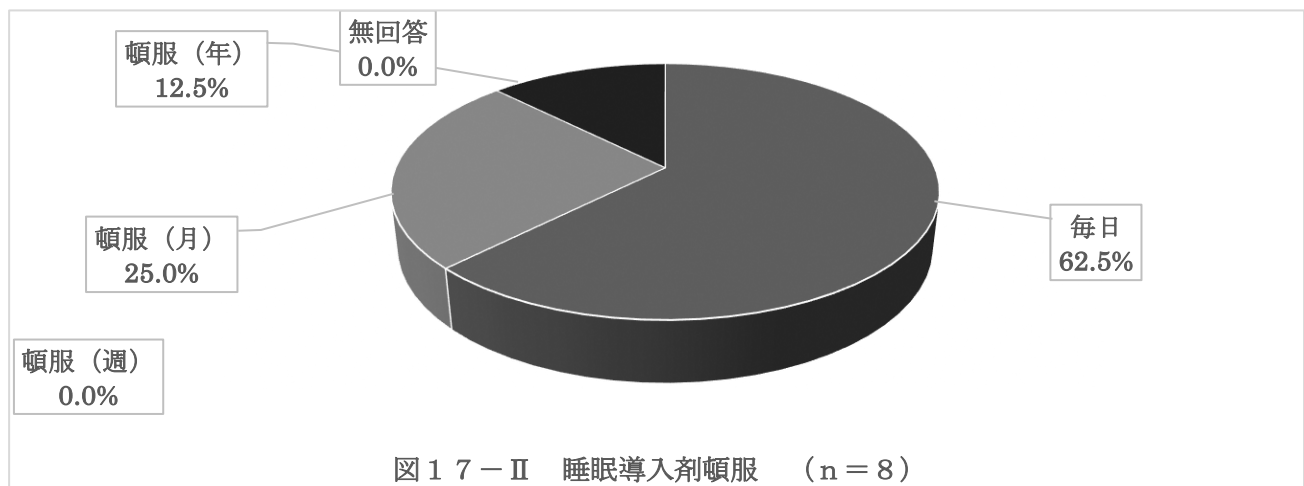


投薬頻度は「毎日」が 62.5% と最も多く、次いで「頓服（月）」が 25.0% となっている。

表 1 7 - II 睡眠導入剤頻度

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

毎日	頓服（週）	頓服（月）	頓服（年）	無回答
5	0	2	1	0
62.5	0.0	25.0	12.5	0.0



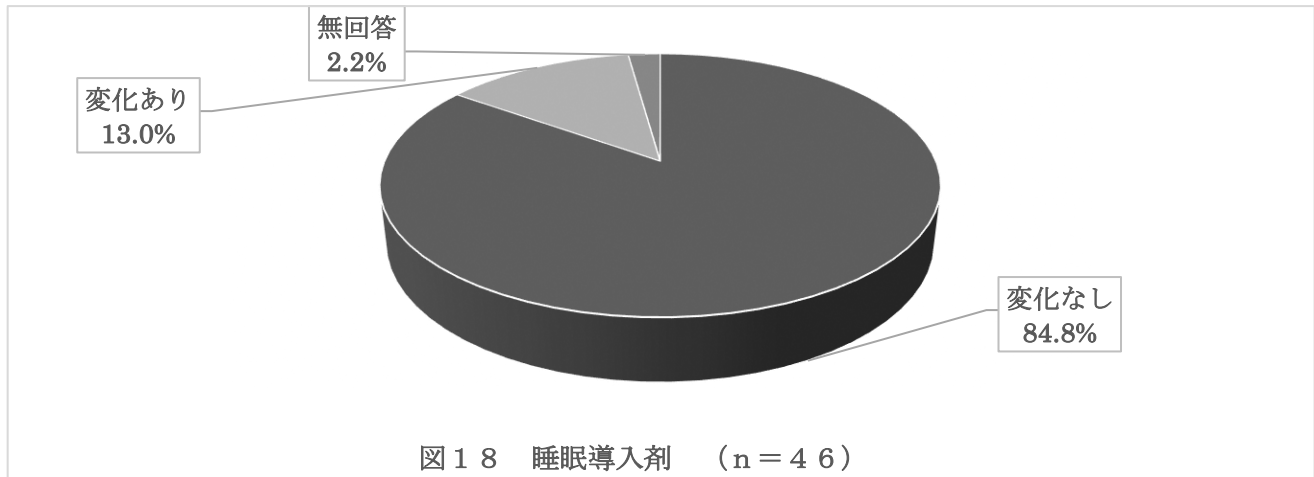
問18. 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）2か月間のご本人の睡眠状況および睡眠導入剤の投薬について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「変化あり」が13.0%となっている。

表18 睡眠・投薬頻度の変化

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

変化なし	変化あり	無回答
39	6	1
84.8	13.0	2.2



問18-2. 問18で「2. 変化あり」を選ばれた方に伺います。

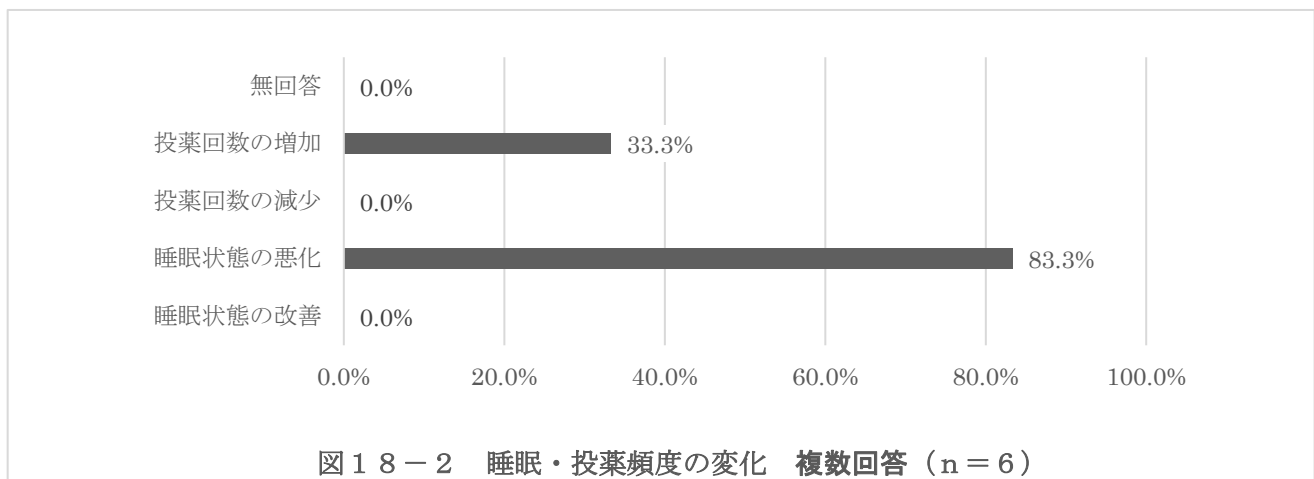
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）2か月間のご本人の睡眠状況および睡眠導入剤の投薬の変化について、あてはまるものすべてに○を付けてください。

「睡眠状態の悪化」が83.3%、「投薬回数の増加」が33.3%となっている。

表18-2 睡眠・投薬頻度の変化 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

睡眠状況の改善	睡眠状況の悪化	投薬回数の減少	投薬回数の増加	無回答
0	5	0	2	0
0.0	83.3	0.0	33.3	0.0



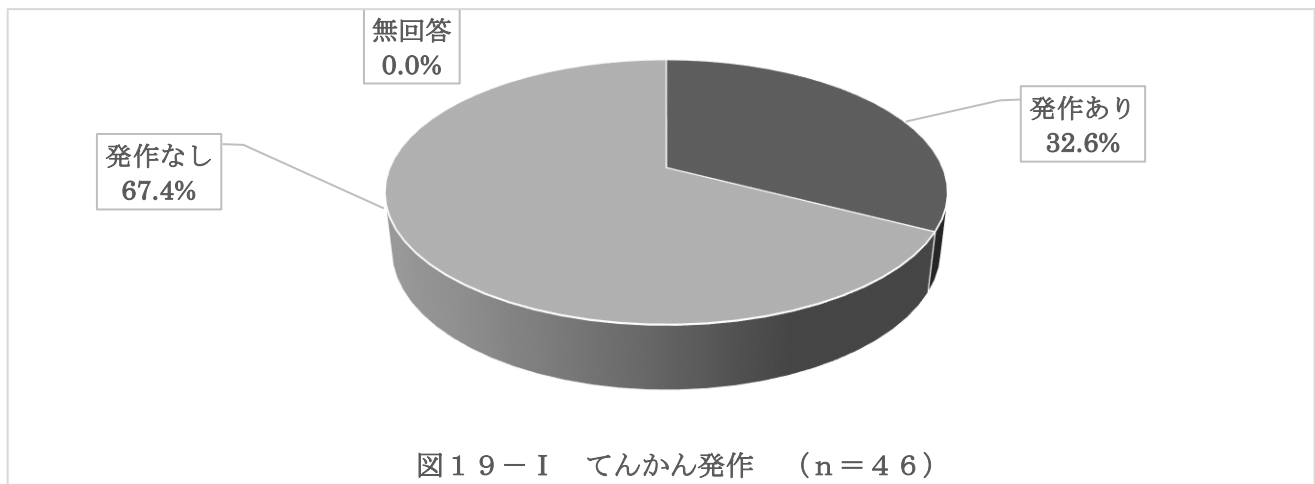
問19. ご本人の最近3年間のてんかん発作の有無について、あてはまるもの1つに○を付けてください。「1. 発作あり」を選ばれた方は、てんかん発作の頻度について、( )内に平均回数を記入し、回数の単位1つに○を付けてください。

「発作あり」が32.6%となっている。

表19-I てんかん発作

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

発作あり	発作なし	無回答
15	31	0
32.6	67.4	0.0

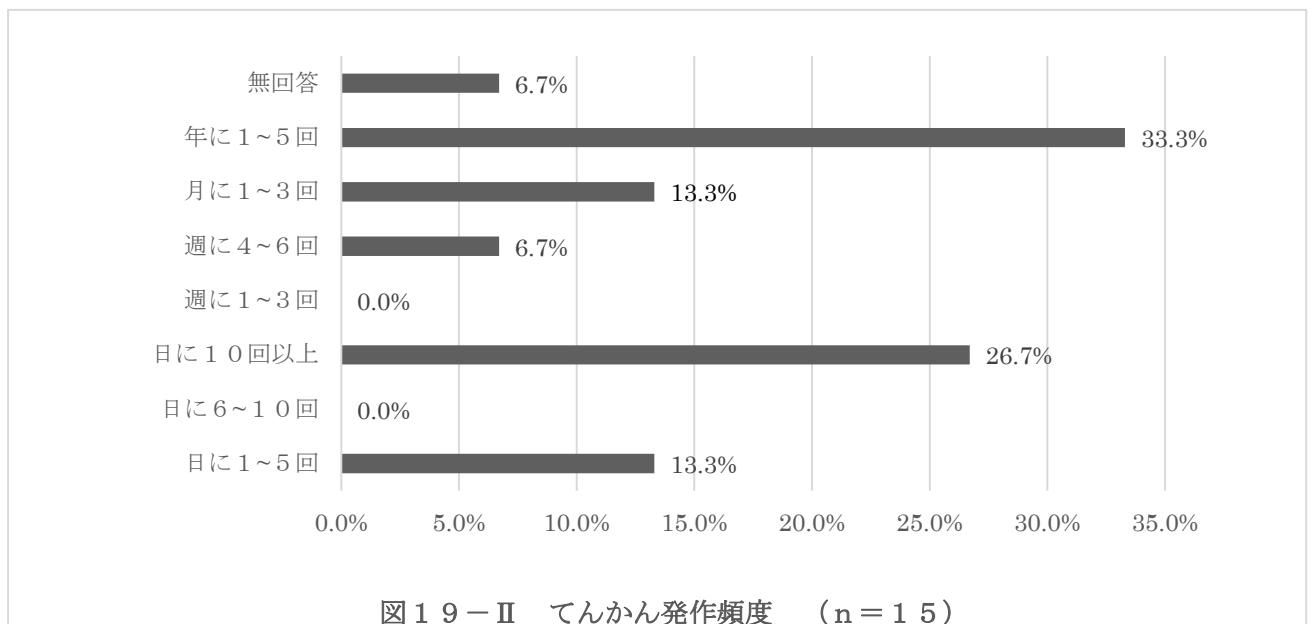


発作頻度は、「年に1~5回」が33.3%と最も多く、次いで「日に10回以上」が26.7%となっている。

表19-II てんかん発作頻度

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

日に1~5回	日に6~10回	日に10回以上	週に1~3回	週に4~6回	月に1~3回	年に1~5回	無回答
2	0	4	0	1	2	5	1
13.3	0.0	26.7	0.0	6.7	13.3	33.3	6.7





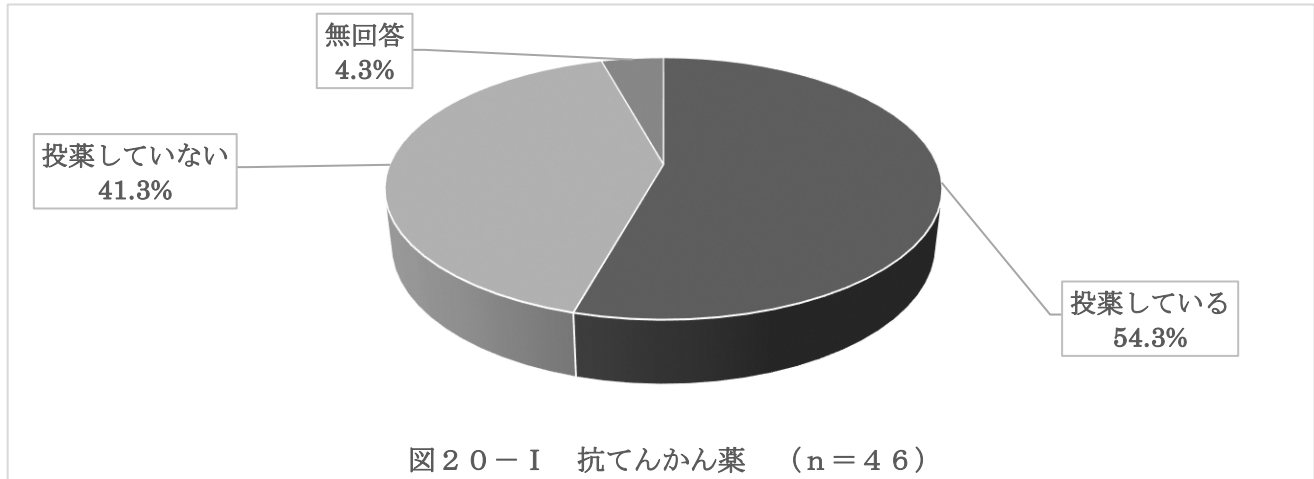
問20. ご本人の抗てんかん薬の投薬について、あてはまるもの1つに○を付けてください。「1. 投薬している」を選ばれた方は、( )内に抗てんかん薬の薬剤数をご記入ください。

「投薬している」が54.3%となっている。

表20-I 抗てんかん薬

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

投薬している	投薬していない	無回答
25	19	2
54.3	41.3	4.3

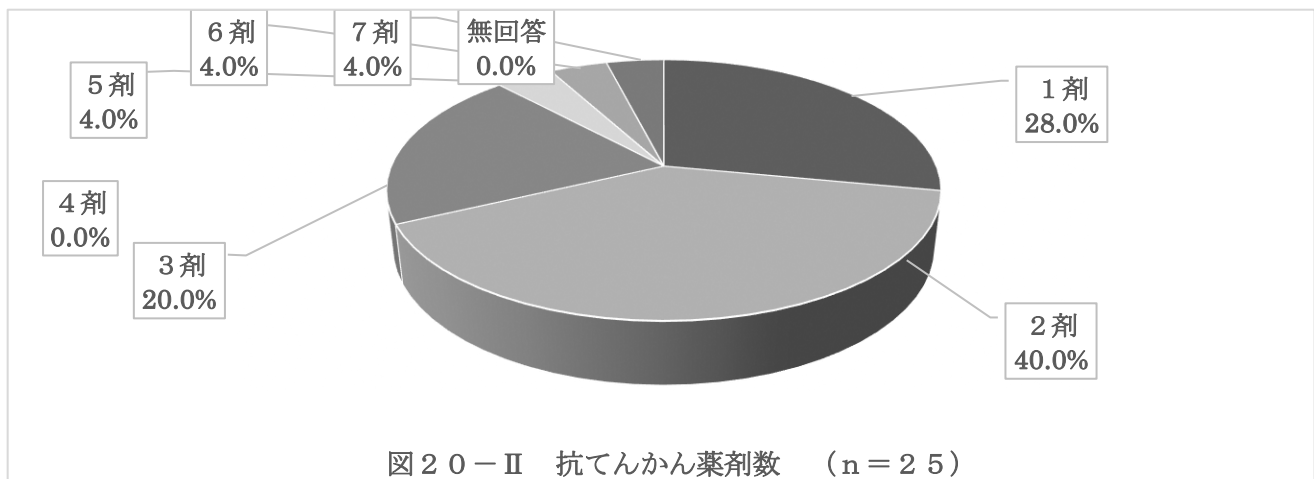


抗てんかん薬の薬剤数は「2剤」が40.0%と最も多く、次いで「1剤」が28.0%となっている。

表20-II 抗てんかん薬剤数

《上段：回答者数(人) 下段：構成比(%)》

1剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	7剤	無回答
7	10	5	0	1	1	1	0
28.0	40.0	20.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0



発作の有無別では「投薬している」方で「発作あり」は60.0%、「発作なし」は40.0%となっている。

表 20-III 抗てんかん薬剤数

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

区分	発作あり	発作なし	無回答
投薬している (n = 25)	15 60.0	10 40.0	0 0.0
投薬していない (n = 19)	0 0.0	19 100.0	0 0.0
無回答 (n = 2)	0 0.0	2 100.0	0 0.0

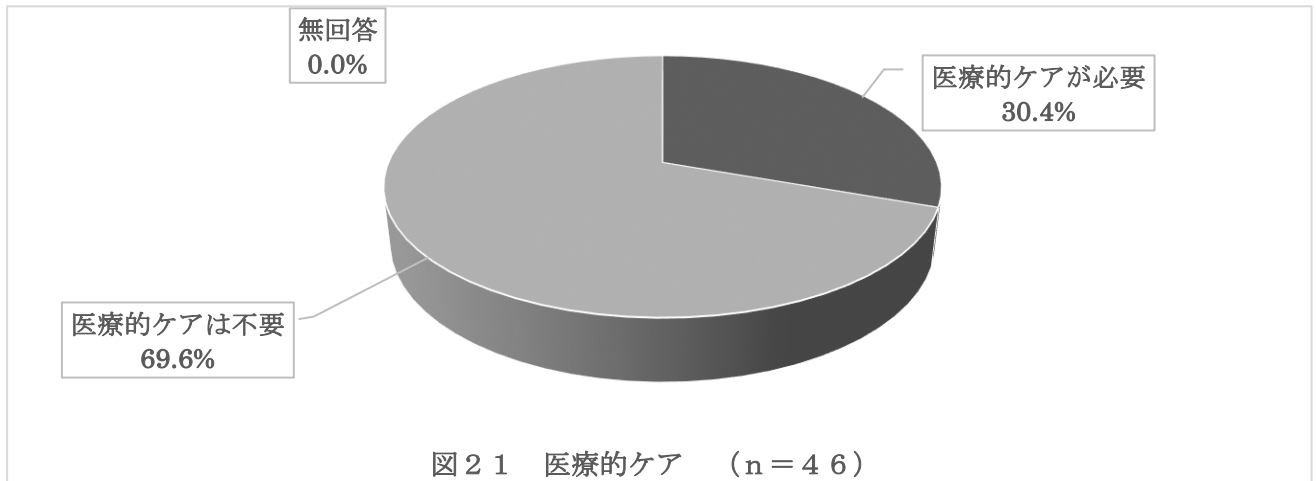
問 2 1. ご本人の医療的ケアの必要性について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「医療的ケアが必要」が 30.4%となっている。

表 2 1 医療的ケア

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

医療的ケアが必要	医療的ケアは不要	無回答
14	32	0
30.4	69.6	0.0



問 2 1 - 2. 問 2 1 で「1. 医療的ケアが必要」を選ばれた方に伺います。

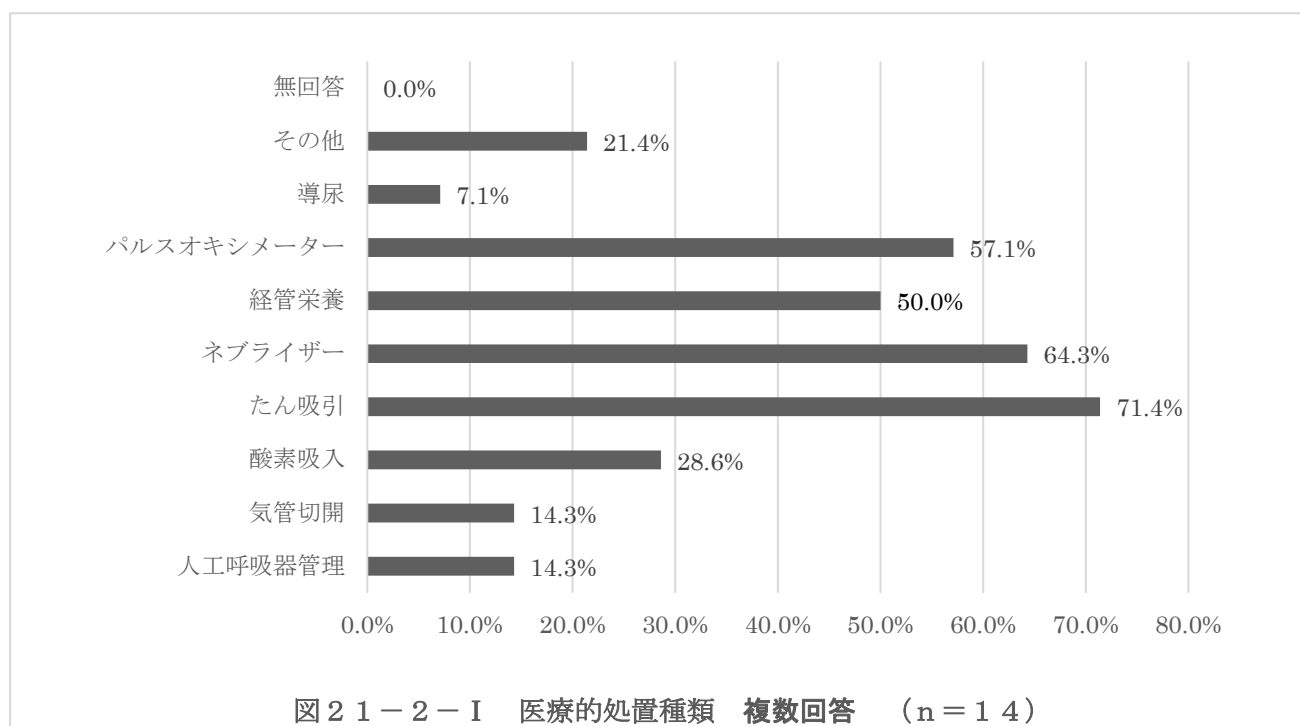
以下のうち、あてはまる処置すべてに○を付け、それぞれの内容や頻度について、( ) 内のあてはまるもの 1 つに○を付けてください。

医療的処置は「たん吸引」が 71.4%と最も多く、次いで「ネブライザー」が 64.3%、「パルスオキシメーター」が 57.1%となっている。

表 2 1 - 2 - I 医療的処置種類 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

人工呼吸器管理	気管切開	酸素吸入	たん吸引	ネブライザー	経管栄養	パルスオキシメーター	導尿	その他	無回答
2	2	4	10	9	7	8	1	3	0
14.3	14.3	28.6	71.4	64.3	50.0	57.1	7.1	21.4	0.0

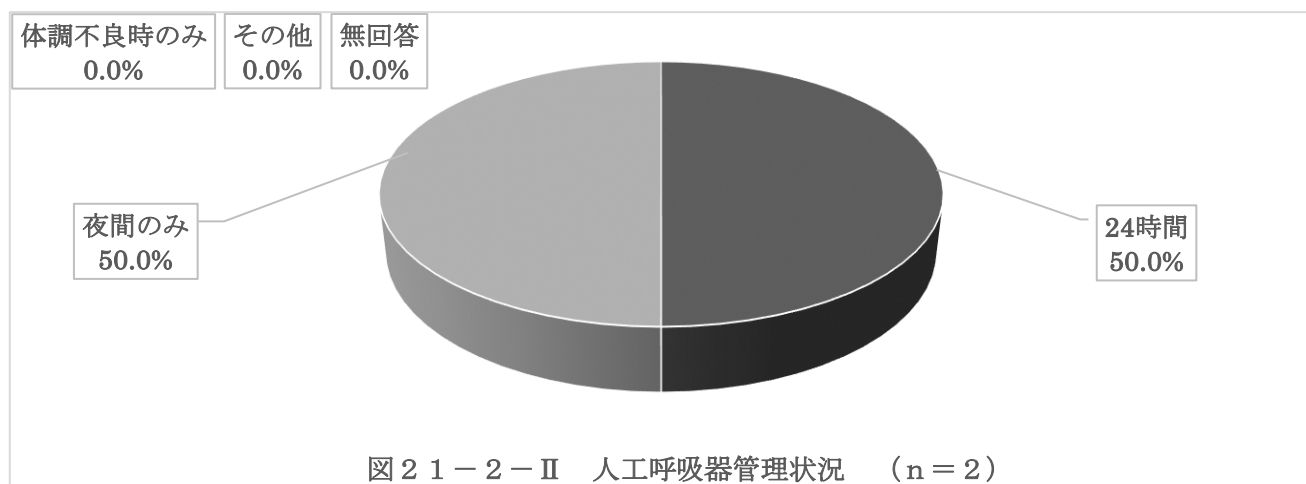


「人工呼吸器管理」状況は「24時間」「夜間のみ」が共に50.0%となっている。

表 2 1 - 2 - II 人工呼吸器管理状況

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

人工呼吸器管理 24時間	人工呼吸器管理 夜間のみ	人工呼吸器管理 体調不良時のみ	人工呼吸器管理 その他	無回答
1	1	0	0	0
50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

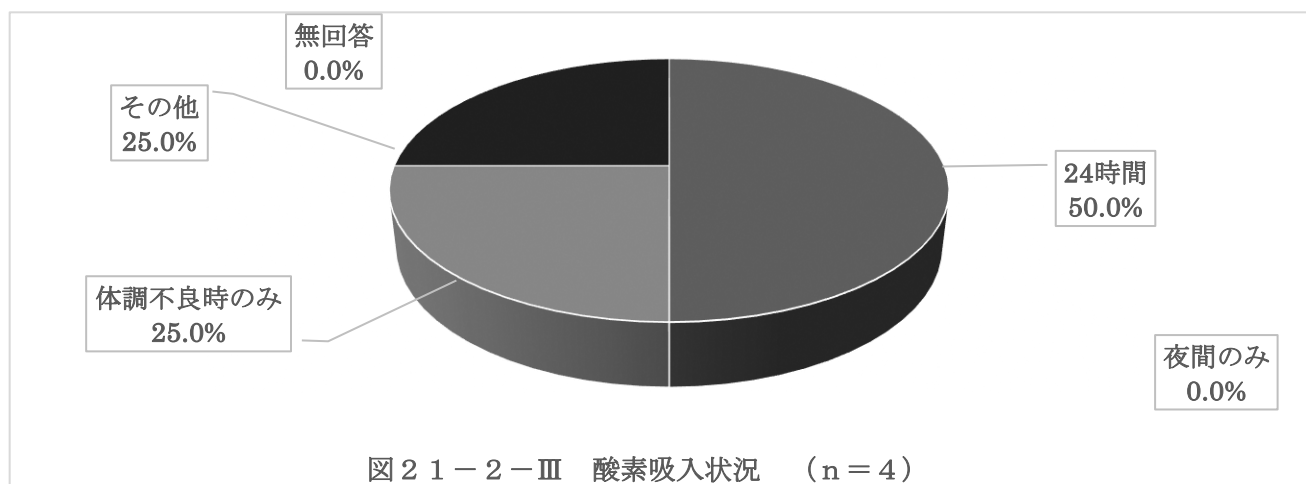


「酸素吸入」状況は「24時間」が50.0%となっている。

表 2 1 - 2 - III 酸素吸入状況

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

酸素吸入 24時間	酸素吸入 夜間のみ	酸素吸入 体調不良時のみ	酸素吸入 その他	無回答
2	0	1	1	0
50.0	0.0	25.0	25.0	0.0



<酸素吸入／その他>

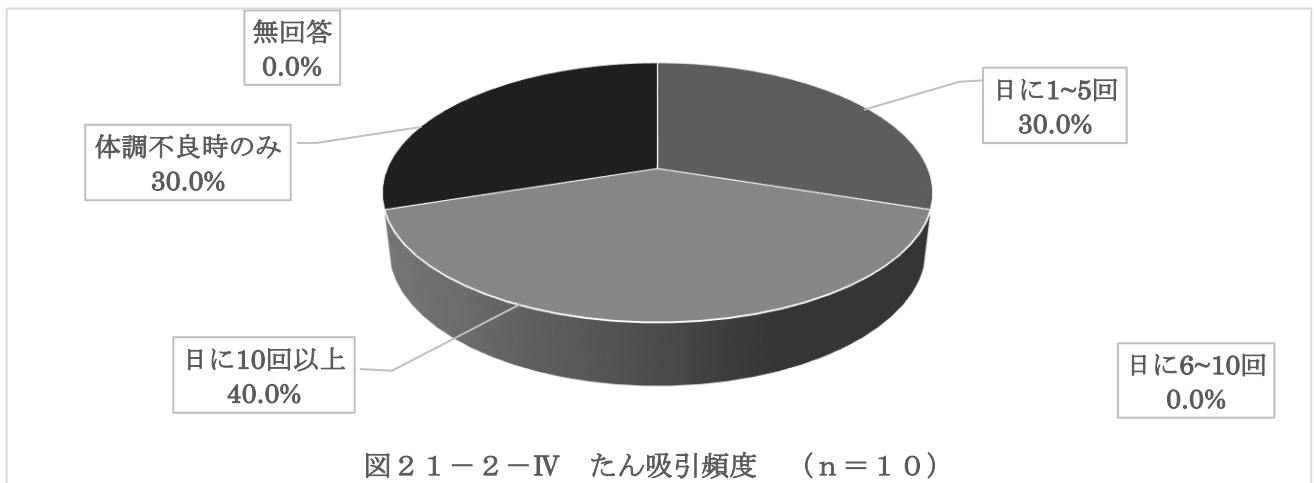
- ・入院時

「たん吸引」頻度は「日に10回以上」が40.0%となっている。

表 2 1 - 2 - IV たん吸引頻度

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

たん吸引 日に1~5回	たん吸引 日に6~10回	たん吸引 日に10回以上	たん吸引 体調不良時のみ	無回答
3	0	4	3	0
30.0	0.0	40.0	30.0	0.0

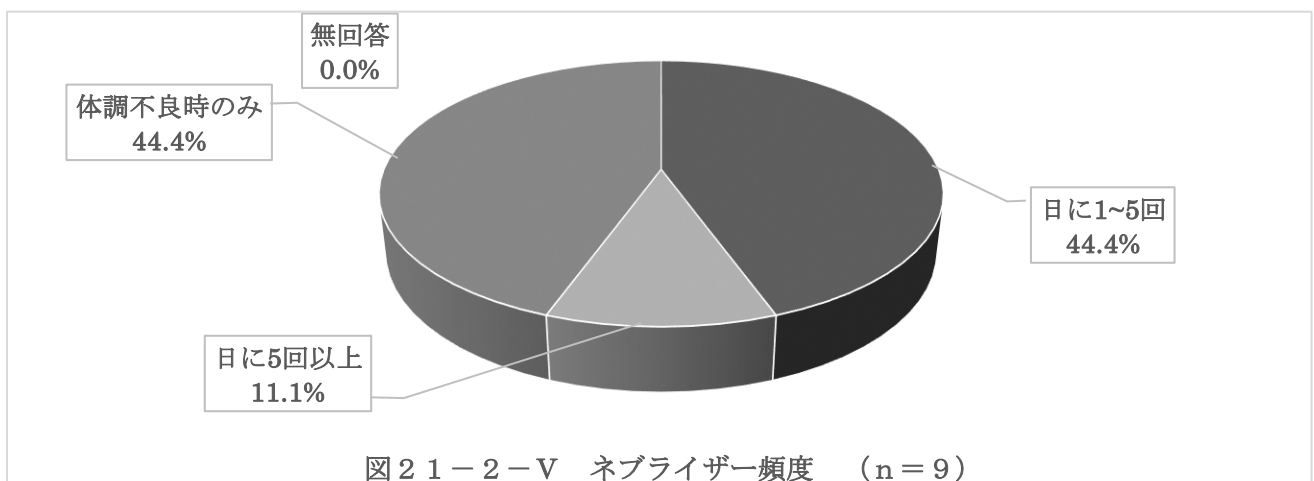


「ネブライザー」頻度は「日に1~5回」「体調不良時のみ」が共に44.4%となっている。

表 2 1 - 2 - V ネブライザー頻度

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

ネブライザー 日に1~5回	ネブライザー 日に5回以上	ネブライザー 体調不良時のみ	無回答
4	1	4	0
44.4	11.1	44.4	0.0

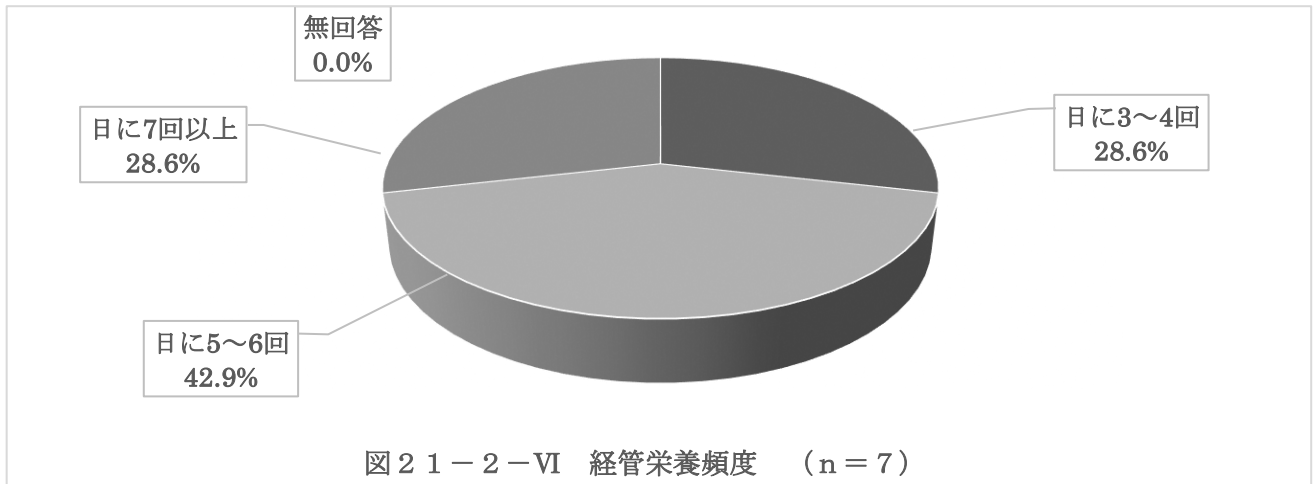


「経管栄養」頻度は「日に5～6回」が42.9%となっている。

表 2 1 - 2 - VI 経管栄養頻度

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

経管栄養 日に3~4回	経管栄養 日に5~6回	経管栄養 日に7回以上	無回答
2	3	2	0
28.6	42.9	28.6	0.0



経管栄養の1回あたりの注入時間について「経鼻」は「60分以内」が75.0%となっており、「胃ろう」は「30分以内」「180分以内」が共に33.3%となっている。

表 2 1 - 2 - VII 経管栄養 1回あたりの注入時間

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

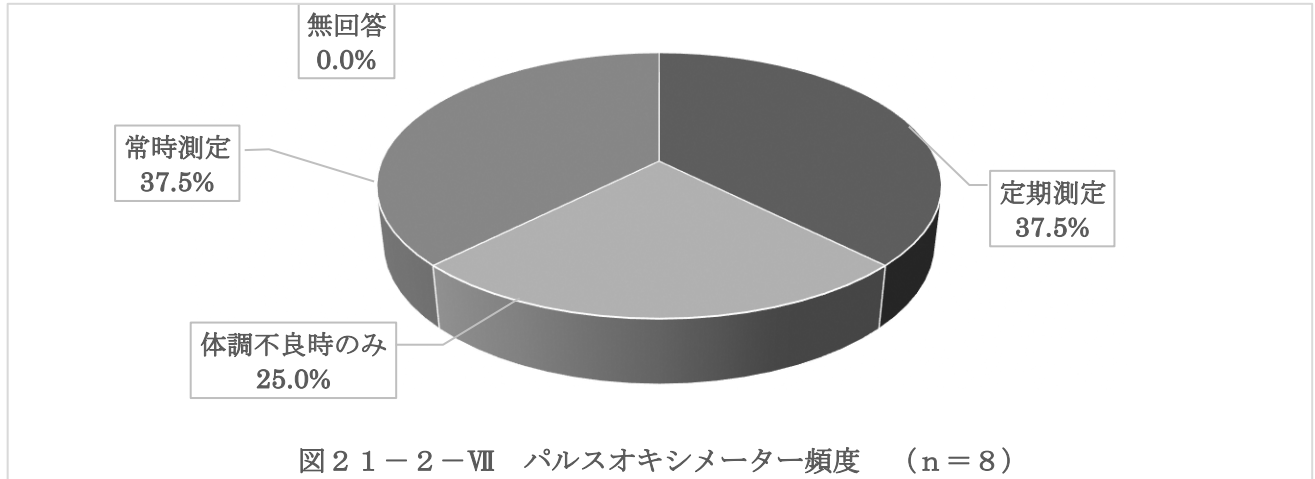
区分	30分以内	60分以内	90分以内	180分以内	無回答
経鼻 (n = 4)	0	3	1	0	0
	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
胃ろう (n = 3)	1	0	0	1	1
	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3

「パルスオキシメーター」は「定期測定」「常時測定」が共に37.5%となっている。

表 2 1 - 2 - VIII パルスオキシメーター頻度

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

パルスオキシメーター 定期測定	パルスオキシメーター 体調不良時	パルスオキシメーター 常時測定	無回答
3	2	3	0
37.5	25.0	37.5	0.0





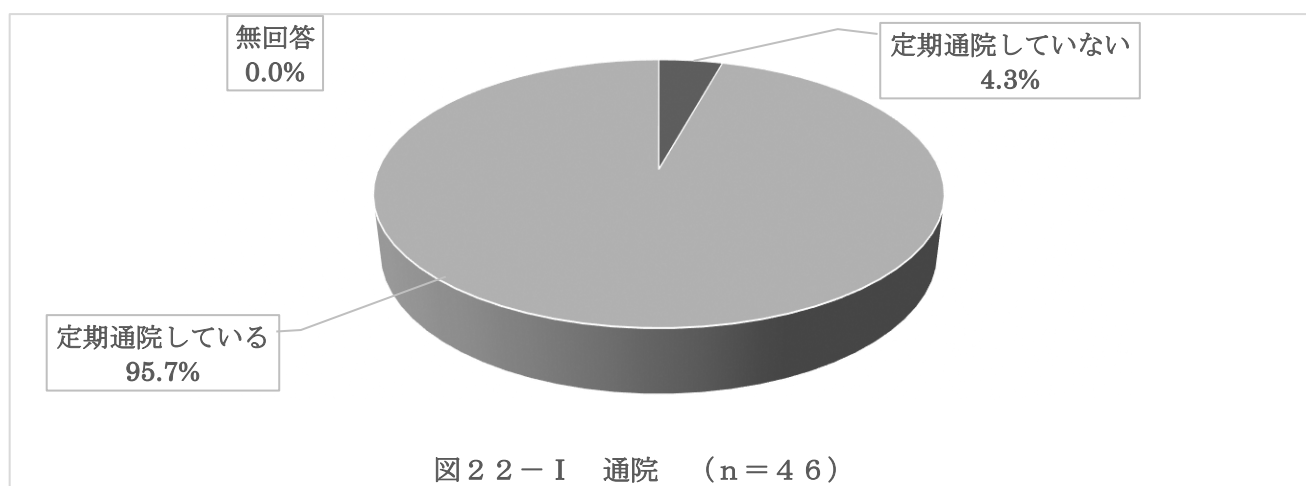
問 2 2. ご本人が定期的に通院している医療機関について、あてはまるもの1つに○を付けてください。  
「2. 定期的に通院している」を選ばれた方は、( )内のあてはまる医療機関数1つに○を付けてください。

「定期通院している」が95.7%となっている。

表 2 2 - I 通院

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

定期通院していない	定期通院している	無回答
2	44	0
4.3	95.7	0.0

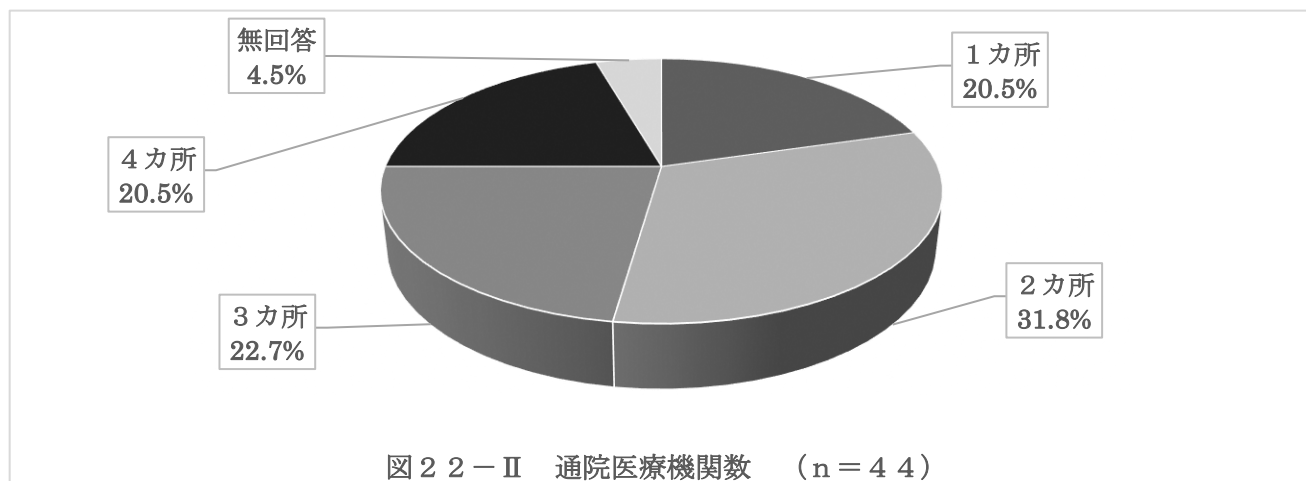


通院医療機関数は「2カ所」が31.8%と最も多く、次いで「3カ所」が22.7%となっている。

表 2 2 - II 通院医療機関数

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

1カ所	2カ所	3カ所	4カ所以上	無回答
9	14	10	9	2
20.5	31.8	22.7	20.5	4.5



問 2 2 - 2. 問 2 2 で「2. 定期的に通院している」を選ばれた方に伺います。

ご本人の定期的な通院の頻度、交通手段、通院の所要時間（片道）についてご記入ください。  
複数通院している場合は、医療機関ごとにご記入ください。

通院頻度は「3 カ月に 1 回」が 52.3% と最も多く、次いで「1 カ月に 1 回」が 50.0%、「6 カ月に 1 回」が 34.1% となっている。

表 2 2 - 2 - I 通院頻度 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

1 カ月に 1 回	1 カ月に 2 回	1 カ月に 3 回	1 カ月に 4 回	2 カ月に 1 回	3 カ月に 1 回	4 カ月に 1 回	5 カ月に 1 回	6 カ月に 1 回	1 2 カ月に 1 回	無回答
2 2	1 0	1	4	1 4	2 3	9	1	1 5	8	0
50.0	22.7	2.3	9.1	31.8	52.3	20.5	2.3	34.1	18.2	0.0

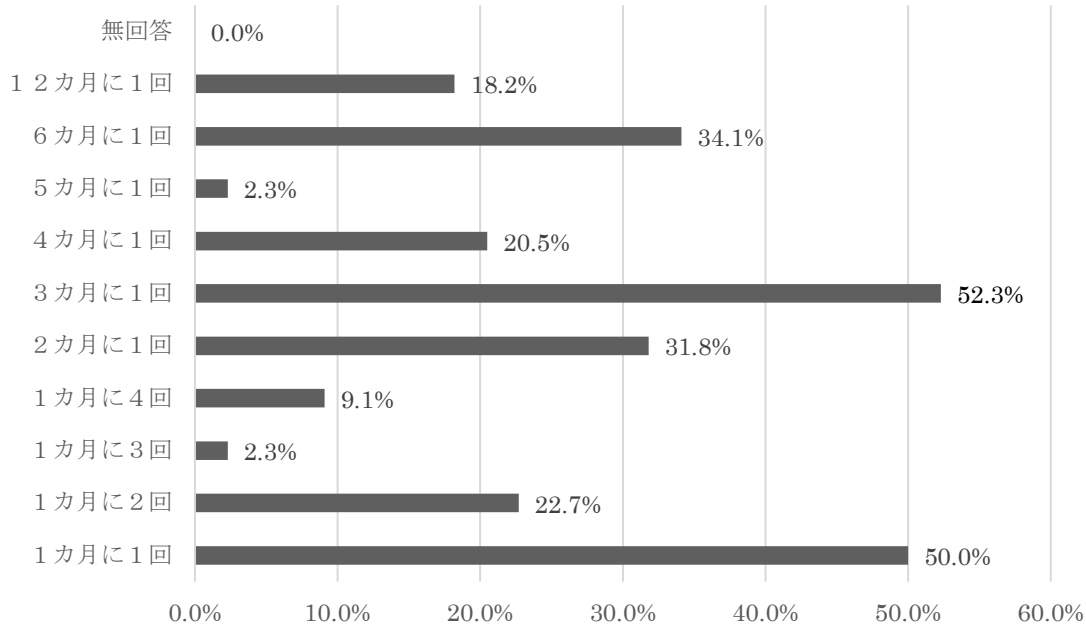


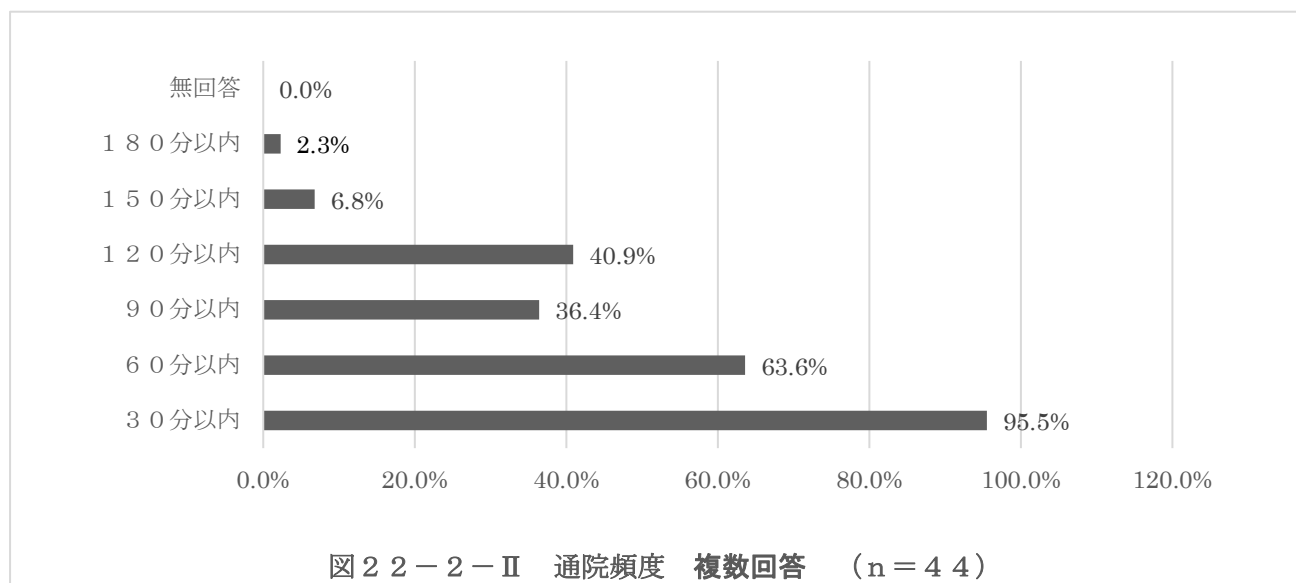
図 2 2 - 2 - I 通院頻度 複数回答 (n = 4 4)

通院所要時間は「30分以内」が95.5%と最も多く、次いで「60分以内」が63.6%となっている。

表 2 2 - 2 - II 通院所要時間 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

30分以内	60分以内	90分以内	120分以内	150分以内	180分以内	無回答
42	28	16	18	3	1	0
95.5	63.6	36.4	40.9	6.8	2.3	0.0

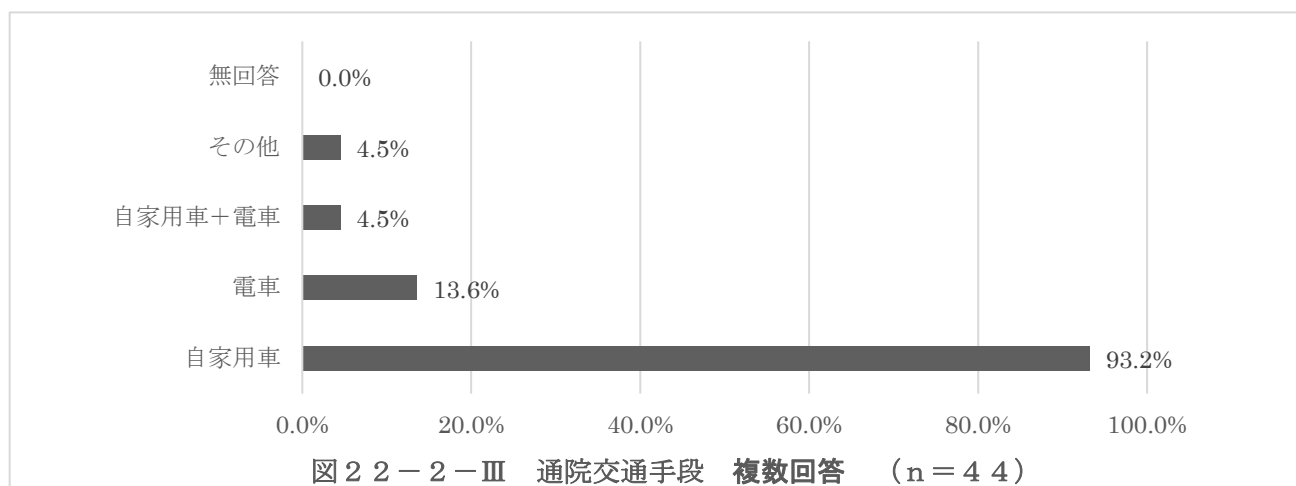


通院の交通手段は、「自家用車」が93.2%と最も多く、次いで「電車」が13.6%となっている。

表 2 2 - 2 - III 通院交通手段 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

自家用車	電車	自家用車+電車	その他	無回答
41	6	2	2	0
93.2	13.6	4.5	4.5	0.0



問 2 2 - 3. 問 2 2 で「2. 定期的に通院している」を選ばれた方に伺います。

ご本人が定期的に通院している医療機関（総合・歯科・機能訓練等）について、あてはまるものすべてに○を付けてください。※差支えなければ医療機関名をご記入ください。（任意）

病院は「埼玉県立小児医療センター」が 45.5%と最も多く、次いで「その他の病院」が 38.6%となっている。

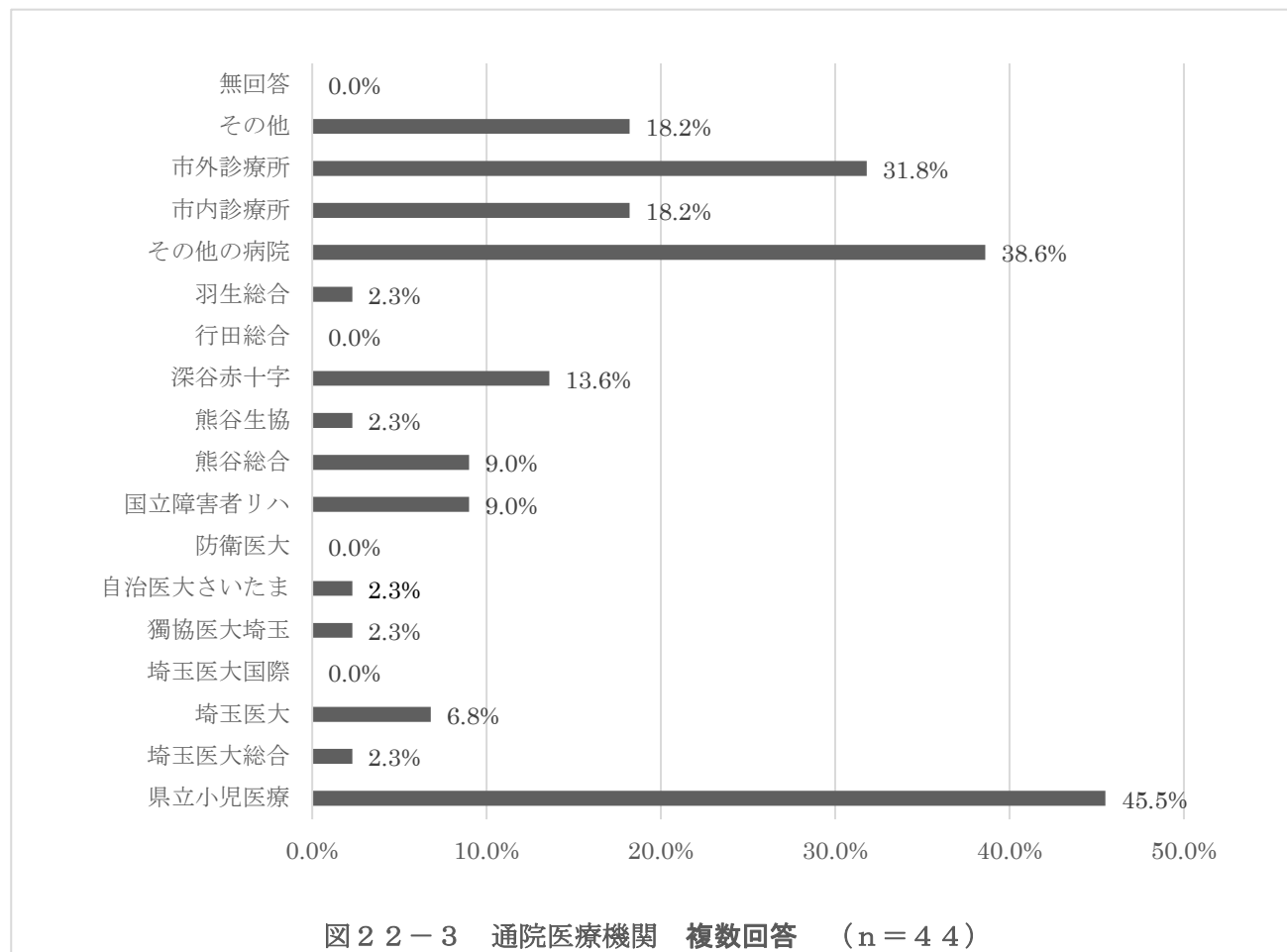
診療所は「市外診療所」が 31.8%、「市内診療所」が 18.2%となっている。

表 2 2 - 3 通院医療機関 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

埼玉県立小児医療センター	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉医科大学病院	埼玉医科大学国際医療センター	獨協医科大学埼玉医療センター	自治医科大学付属さいたま医療センター	防衛医科大学病院	国立障害者リハビリテーションセンター	熊谷総合病院
20	1	3	0	1	1	0	4	4
45.5	2.3	6.8	0.0	2.3	2.3	0.0	9.0	9.0

熊谷生協病院	深谷赤十字病院	行田総合病院	羽生総合病院	その他の病院	市内診療所	市外診療所	その他	無回答
1	6	0	1	17	8	14	8	0
2.3	13.6	0.0	2.3	38.6	18.2	31.8	18.2	0.0



<その他の病院>

- ・国立精神神経医療研究センター
- ・国立成育医療研究センター
- ・国立東埼玉病院
- ・東京都北療育センター
- ・群馬県立小児医療センター
- ・明海大学病院
- ・桐生厚生総合病院
- ・太田記念病院
- ・あしかがの森足利病院
- ・佐野厚生総合病院
- ・藤間病院

<市内診療所（医院、クリニック等）>

- ・明戸大塚医院
- ・森医院 こどもクリニック
- ・かくたクリニック
- ・しぶや医院
- ・吹田脳外科医院
- ・荻野耳鼻科
- ・森田皮膚科
- ・たかの眼科
- ・大川眼科
- ・銀座歯科クリニック

<市外診療所（医院、クリニック等）>

- ・国立のぞみの園診療所
- ・県立皆光園障害者歯科診療所
- ・嵐山郷歯科
- ・ハロークリニック
- ・戸田リハクリニック
- ・まつむらクリニック

<その他>

- ・ゆう接骨院
- ・太陽の園
- ・カリヨンの杜

問22-4. 問22で「2. 定期的に通院している」を選ばれた方に伺います。

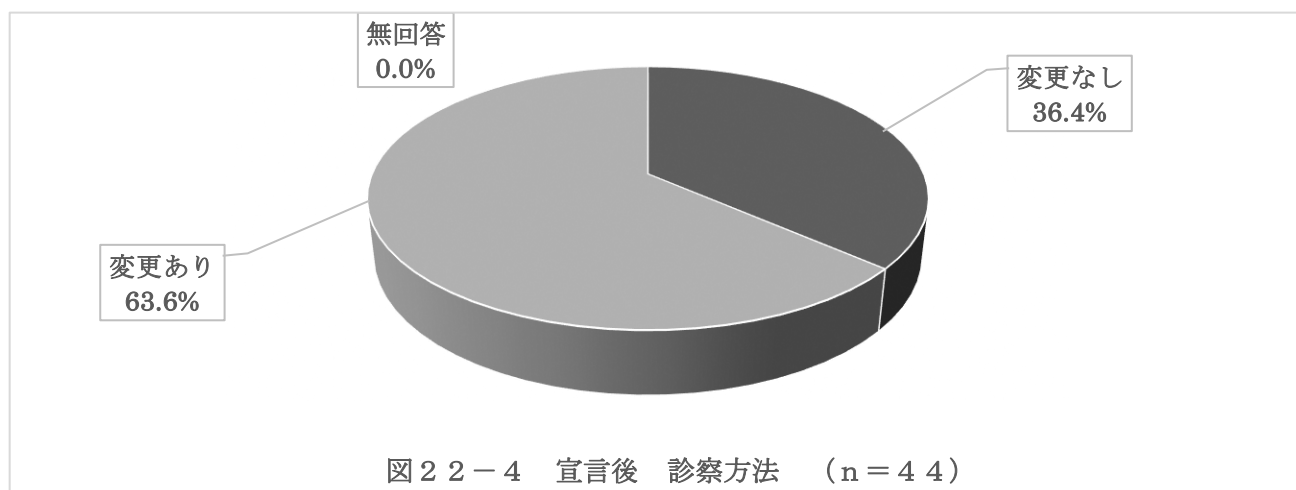
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）2か月間のご本人の主たる医療機関で行われた診療方法について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「変更あり」が63.6%となっている。

表22-4 宣言後 診察方法

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

変更なし	変更あり	無回答
16	28	0
36.4	63.6	0.0



問22-5. 問22-4で「2. 変更あり」を選ばれた方に伺います。

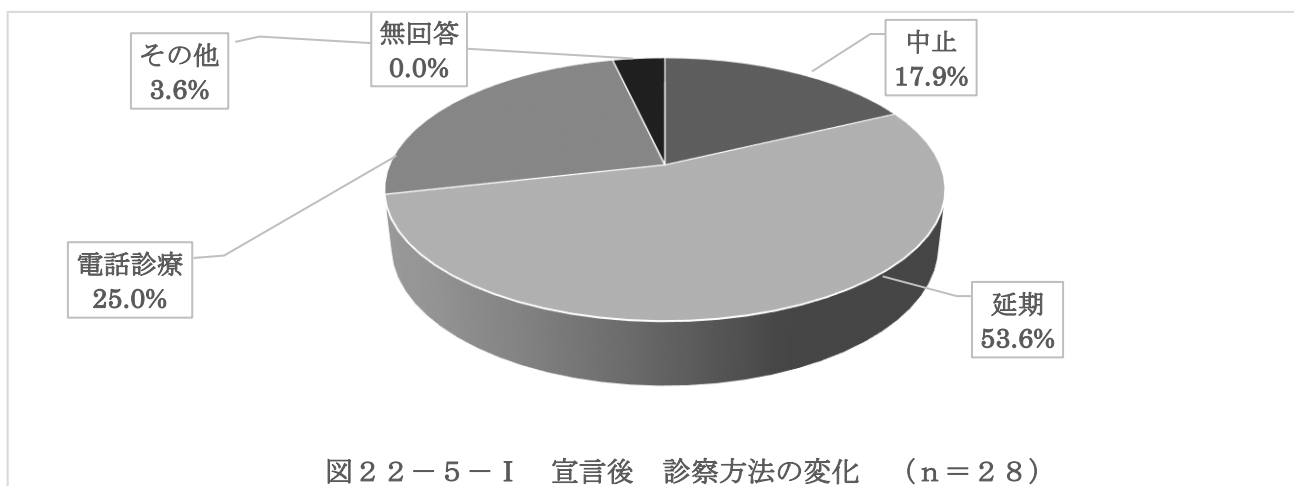
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）2か月間のご本人の主たる医療機関で行われた診療方法の変更について、あてはまるもの1つに○を付け、（ ）内の主な理由1つに○を付けてください。

「延期」が53.6%と最も多く、次いで「電話診療」が25.0%、「中止」が17.9%となっている。

表22-5-I 宣言後 診察方法の変化

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

中止	延期	電話診療	その他	無回答
5	15	7	1	0
17.9	53.6	25.0	3.6	0.0



<その他>

- ・電話で確認後、親のみ通院し薬を処方してもらった
- ・次回の予約までに長めに期間を空けた

緊急事態宣言後の診察方法の変化理由として「中止」は「医療機関からの要請」が80.0%となっており、「延期」は「医療機関からの要請」が53.3%となっている。また、「電話診療」は「自発的」が57.1%となっている。

表22-5-II 宣言後 診察方法 変化の理由

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

区分	医療機関からの要請	自発的	その他	無回答
中止 (n=5)	4 80.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
延期 (n=15)	8 53.3	6 40.0	0 0.0	1 6.7
電話診療 (n=7)	3 42.9	4 57.1	0 0.0	0 0.0
その他 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

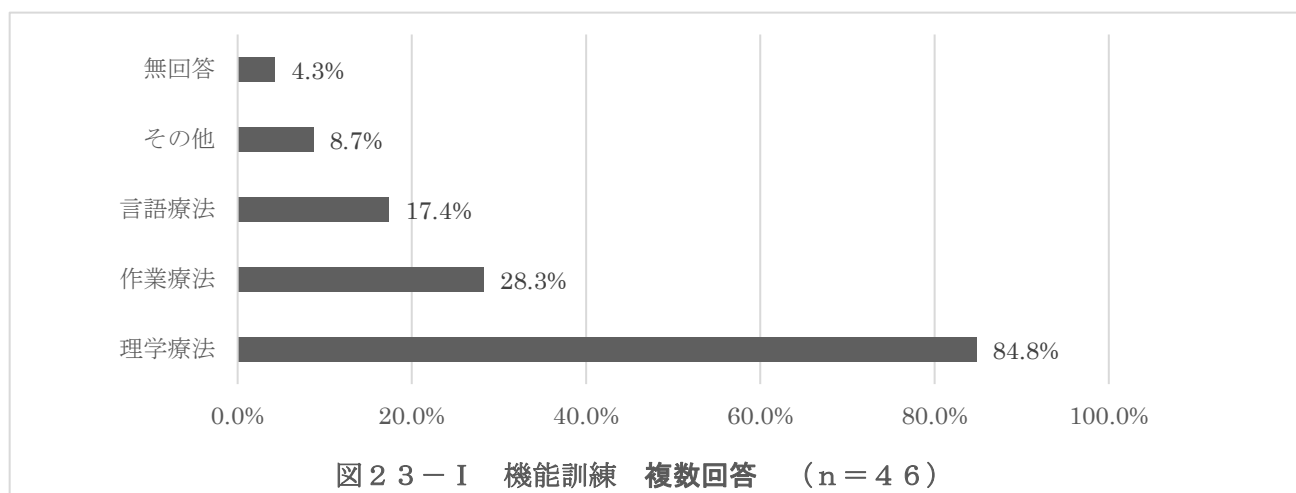
問 2 3. ご本人が受けている機能訓練について、あてはまるものすべてに○を付け、( ) 内の主な提供場所 1 つに○を付けてください。

「理学療法」を受けている方が 84.8%と最も多く、次いで「作業療法」を受けている方が 28.3%となっている。

表 2 3 - I 機能訓練 複数回答

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

理学療法 PT	作業療法 OT	言語療法 ST	その他	無回答
3 9	1 3	8	4	2
84. 8	28. 3	17. 4	8. 7	4. 3



<その他>

- ・音楽療法 (MT)

機能訓練を受ける主な場所として「理学療法」は「通所施設」が 43.6%、「医療機関」が 35.9%となっており、「作業療法」は「医療機関」が 76.9%、「通所施設」が 23.0%となっている。また、「言語療法」は「医療機関」が 87.5%、「通所施設」が 12.5%となっている。

表 2 3 - II 機能訓練を受けている主な場所

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

区分	医療機関	通所施設	自宅	その他	無回答
理学療法 PT (n = 3 9)	1 4 35. 9	1 7 43. 6	2 5. 1	0 0. 0	6 15. 4
作業療法 OT (n = 1 3)	1 0 76. 9	3 23. 0	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0
言語療法 ST (n = 8)	7 87. 5	1 12. 5	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0
その他 (n = 4)	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0	4 100. 0
無回答 (n = 2)	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0	0 0. 0	2 100. 0



問 2 4. ご本人の通園・通学状況について、あてはまる 1 つに○を付けてください。

4～7 を選んだ方は、( ) 内の主なもの 1 つに○を付けてください。

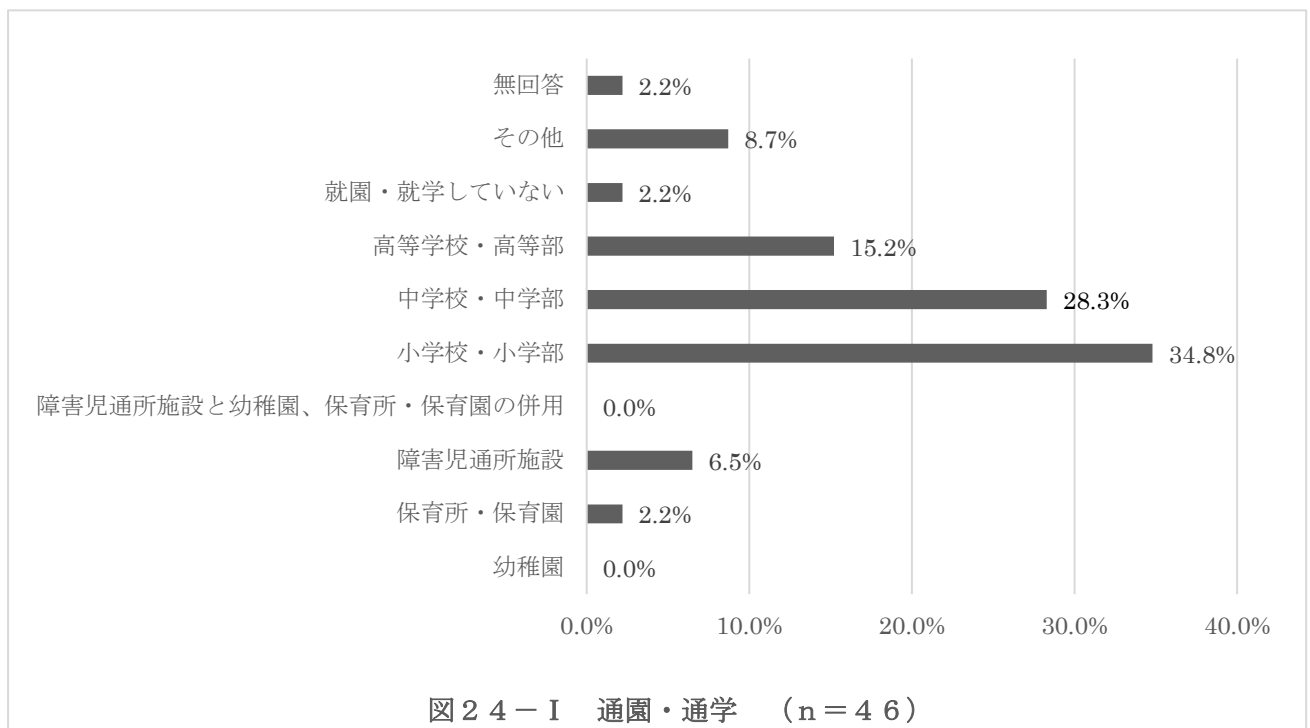
未就学児では「障害児通所施設（児童発達支援）」が 6.5% となっている。

児童・生徒では「小学校・小学部」が 34.8% と最も多く、次いで「中学校・中学部」が 28.3%、「高等学校・高等部」が 15.2% となっている。

表 2 4 - I 通園・通学

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

幼稚園	保育所・ 保育園	障害児通 所施設 (児童発 達支援)	障害児通 所施設 (児童発 達支援) と幼稚 園、保育 所・保育 園の併用	小学校・ 小学部	中学校・ 中学部	高等学 校・高等 部	就園・就 学してい ない	その他	無回答
0	1	3	0	16	13	7	1	4	1
0.0	2.2	6.5	0.0	34.8	28.3	15.2	2.2	8.7	2.2



<その他>

- ・作業所
- ・事業所
- ・2020年3月普通高校卒業、現在就活中
- ・2020年3月普通高校卒業

児童・生徒の通学先として「小学校・小学部」は「特別支援学校」が75.0%、「特別支援学級」が18.9%となっており、「中学校・中学部」は「特別支援学校」が69.2%、「通常学級」「特別支援学級」が共に15.4%となっている。また、「高等学校・高等部」は「特別支援学校」が100.0%となっている。

表24-II 児童・生徒（通学先別）

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

区別	通常の学級	特別支援学級	特別支援学校	無回答
小学校・小学部 (n = 16)	1	3	12	0
	6.3	18.9	75.0	0.0
中学校・中学部 (n = 13)	2	2	9	0
	15.4	15.4	69.2	0.0
高等学校・高等部 (n = 7)	0	0	7	0
	0.0	0.0	100.0	0.0

問25. 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）

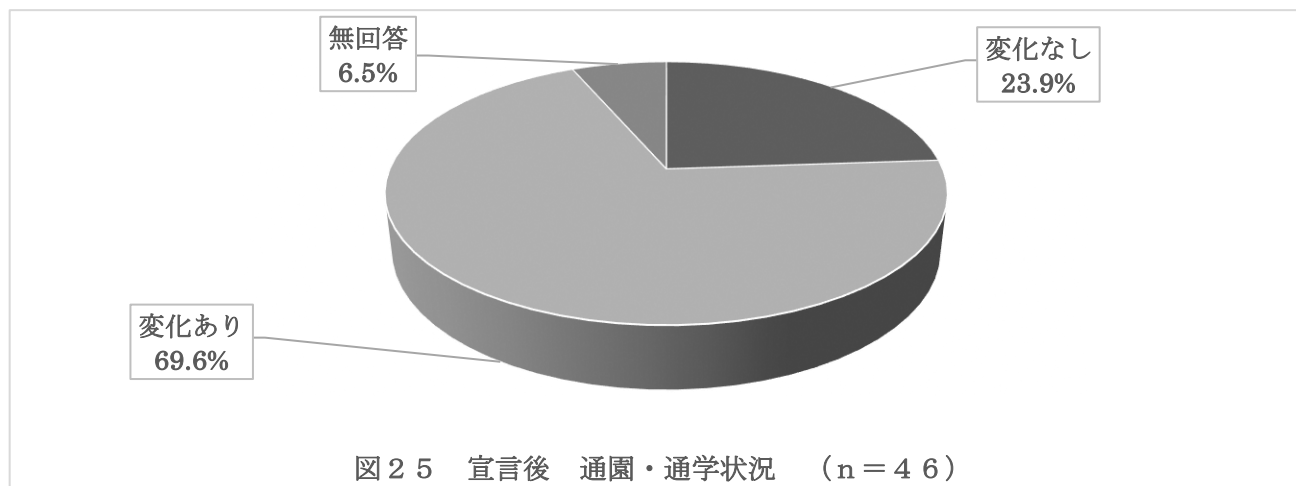
2か月間のご本人の通園・通学状況について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

「変化あり」が69.6%となっている。

表25 宣言後 通園・通学状況

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

変化なし	変化あり	無回答
11	32	3
23.9	69.6	6.5



問25-2. 問25で「2. 変化あり」を選ばれた方に伺います。

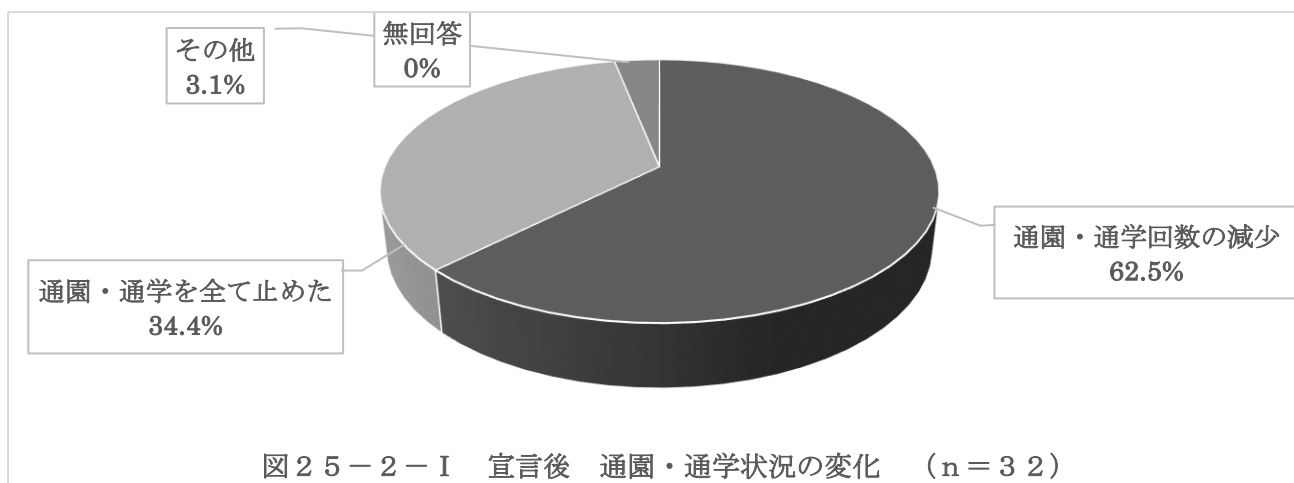
新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言後（2020年4月7日以降）2か月間のご本人の通園・通学状況の変化について、あてはまるもの1つに○を付け、（ ）内の主な理由1つに○を付けてください。

「通園・通学回数の減少」が62.5%、「通園・通学を全て止めた」が34.4%となっている。

表25-2-I 宣言後 通園・通学状況の変化

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

通園・通学回数の減少	通園・通学を全て止めた	その他	無回答
20	11	1	0
62.5	34.4	3.1	0.0



緊急事態宣言後の通園・通学の変化理由について「通園・通学回数の減少」は「通園・通学先からの要請」が80.0%となっており、「通園・通学を全て止めた」は「通園・通学先からの要請」「自粛」共に45.5%となっている。

表25-2-II 宣言後 通園・通学状況の変化理由

《上段：回答者数（人） 下段：構成比（%）》

区分	通園・通学先からの要請	自粛	その他	無回答
通園・通学回数の減少 (n=20)	16 80.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0
通園・通学を全て止めた (n=11)	5 45.5	5 45.5	0 0.0	1 9.1
その他 (n=1)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

<その他>

作業所の時間短縮

## 【ご本人について】 自由記述

・新型コロナウイルスによる影響で、外出が減少し、自宅にいることにストレスを感じ、自傷行動(窓ガラスやテーブルの角に頭をぶつけるなど)が出てしまった。学校再開によりなくなってほっとした。自粛期間中に、マスク着用できるようになった。(外出する為の手段として覚えた)。伝える力(コミュニケーション能力)が上がった。これも必死に外出したいと訴える為に。

・成長し、体が大きくなるにつれ、小さい頃できていた事がどんどんできなくなっていき、わかっていたことですが、いざそうになると、心苦しい時もあります。PT、OTなど訓練も何かしてもらうことはなくなり、ストレッチなどがメインになりました。小さい頃と比べ、学校へ毎日通学、寄宿舍、ショートなど、家とは別の場所に泊まれるようになったのは、体力もつき、慣れもあるのかと思います。